



長崎市公共施設マネジメント 山里・江平地区計画

長崎市 令和5年2月
(令和7年12月改訂)

【目次】

1	山里・江平地区の特性	1
2	山里・江平地区の将来推計人口	1
3	山里・江平地区の公共施設配置図	3
4	山里・江平地区の公共施設の情報	4
5	将来の方向性	7
(1)	市民利用型施設	8
①	障害者支援施設（障害福祉センター）	8
②	保健施設（原子爆弾被爆者健康管理センター）	10
③	博物館等（野口彌太郎記念美術館、歴史民俗資料館）	12
④	平和施設（平和会館ホール、永井隆記念館、如己堂、原子爆弾無縁死没者追悼祈念堂、長崎原爆資料館）	15
⑤	ホール型施設（長崎ブリックホール）	19
⑥	コミュニティ活動施設（山里地区ふれあいセンター、浦上駅前ふれあいセンター、銭座地区コミュニティセンター、老人福祉センターあじさい荘）	21
⑦	学校（高尾小学校、山里小学校、坂本小学校、銭座小学校、山里中学校）	29
⑧	放課後児童クラブ（キラキラたかお／もりもりたかお、わくわくたかお、やまざとクラブ、やまざとキッズハウス、おおくす児童クラブ）	31
⑨	子育て関連施設（発達支援特化型子育て支援センター「にこっと」、山里地区子育て支援センター「令和5年3月開設予定」）	36
(2)	都市基盤施設	38
①	市営駐車場（茂里町駐車場、浦上駅二輪車等駐車場、若葉町二輪車等駐車場、大橋町二輪車等駐車場）	38
②	市営住宅（シュモー住宅、若葉住宅、三芳住宅、江平住宅、銭座住宅）	41
(3)	公用施設	44
①	消防施設（北消防署、北消防署浦上出張所）	44
②	その他事務所（保健環境試験所、動物愛護管理センター）	48
(4)	公園施設	50
①	公園施設（街区公園）	50
6	地区計画のロードマップ（再掲）	51
参考	市民対話の実施	53

1 山里・江平地区の特性

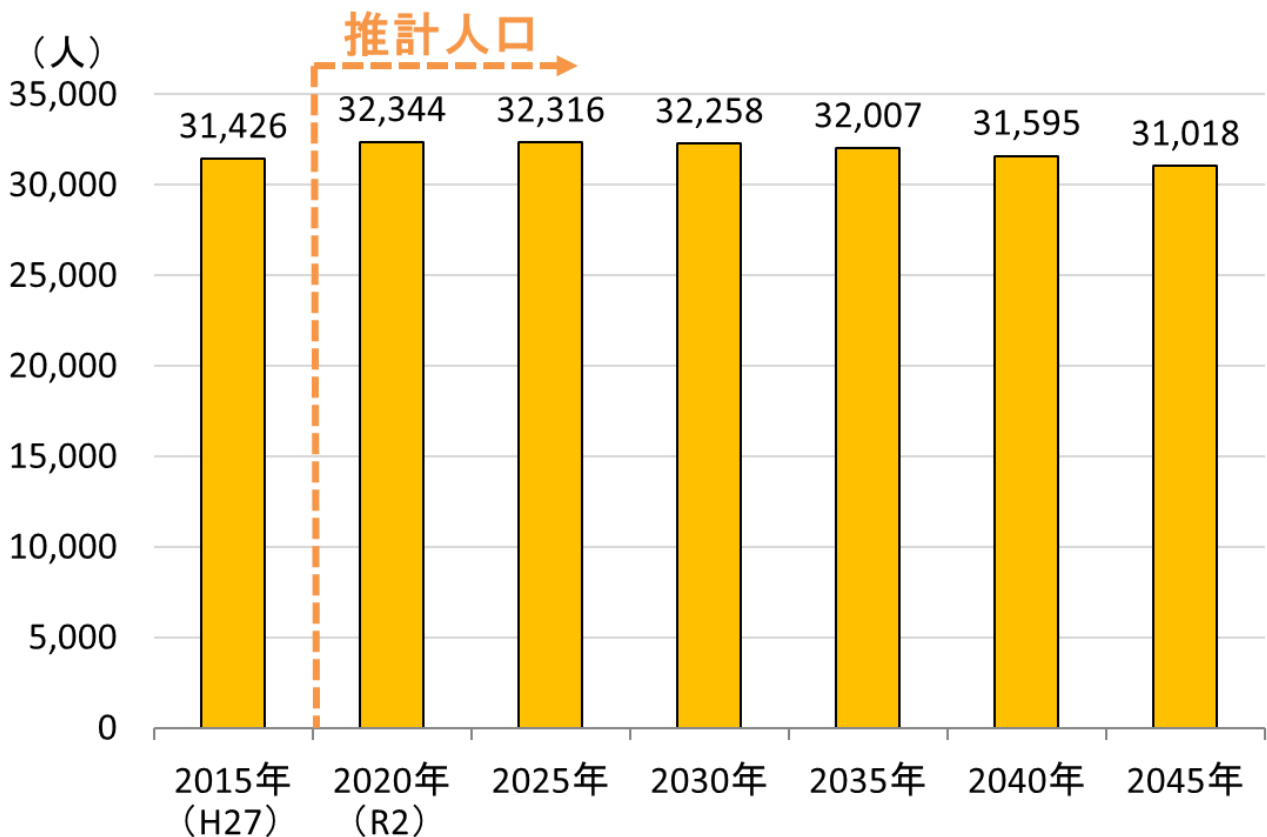
山里・江平地区は都心部の北部に位置し、中央部を南北に流れる浦上川の右岸には、南側の都心部から連坦する商業・業務地が形成され、その北側には市のシンボルの公園である平和公園が立地しています。

この地区は、昭和20年（1945年）の原子爆弾被災時、爆心地一帯を中心に壊滅的な被害を受けました。時代を超えて被爆の実相を伝え、核兵器根絶を訴える基幹施設の役割を持った長崎原爆資料館や、原子爆弾によって犠牲となった無縁死没者の遺骨を安置している原子爆弾無縁死没者追悼祈念堂などの平和施設が数多くあります。

このほか坂本町には、熱帯病の研究に専心できる日本唯一の研究教育機関である長崎大学熱帯医学研究所が立地し、日本国内からのみならず世界各国から多くの学生、研修生を受け入れており、国際色豊かな一面もある地区です。

2 山里・江平地区の将来推計人口

平成27年（2015年）に実施された国勢調査では、山里・江平地区の人口は約31,000人でした。国の研究機関の将来推計を基にした地区別の推計では、2045年においても同じ程度になると予測されています。



※ 2015年は国勢調査による実績値

※ 2020年以降は、2010年の国勢調査を基礎とした国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口を基に算出

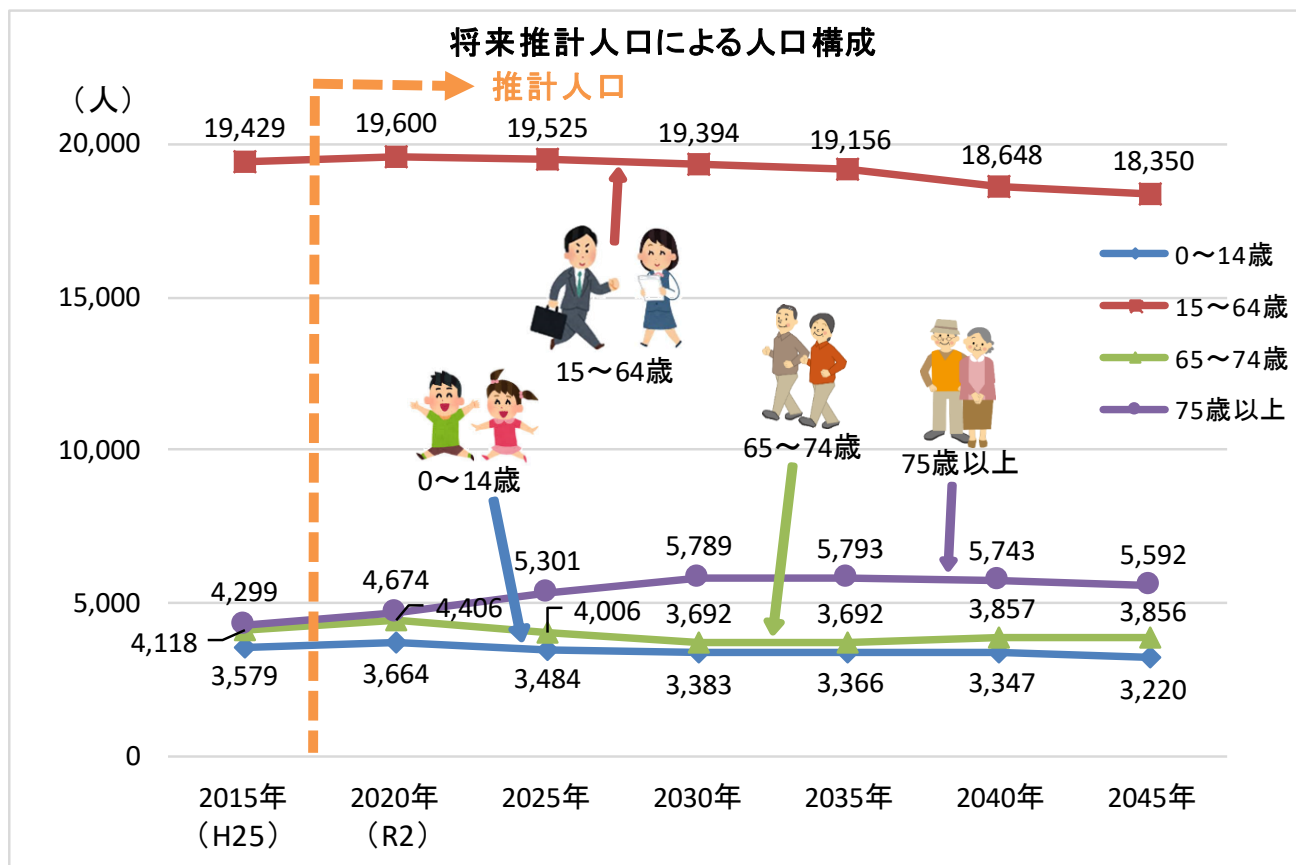
また、今後の山里・江平地区の年齢層別人口構成は、2045 年にかけて次のようになると予測されています。

0 歳から 14 歳までの年少人口（青色（ひし形））及び 15 歳から 64 歳までの生産年齢人口（赤色（四角））は、ほぼ横ばいで推移していきますが、僅かに減少傾向が続くと予測されています。

老年人口のうち 65 歳から 74 歳までの層（緑色（三角））は、2030 年まで僅かに減少し、その後はほぼ横ばいで推移していくと予測されています。

老年人口のうち 75 歳以上の層（紫色（丸））は、2030 年まで緩やかに増加し、その後はほぼ横ばいで推移していくと予測されています。

2015 年は、地区の総人口のうち 15 歳から 64 歳の生産年齢人口層が占める割合は約 62%、65 歳以上の層の人口が占める割合は約 27%でしたが、2045 年には、それぞれ約 59%、約 30%になると予測されています。



※ 2015 年は国勢調査による実績値

※ 2020 年以降は、2010 年の国勢調査を基礎とした国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口を基に算出

4 山里・江平地区の公共施設の情報

(1) 市民利用型施設

令和4年3月31日現在

サービス 領域	種類	施設の名称	施設の機能	床面積	建築年月 (※1)	経過 年数	避難所	耐震性	使っていない 部屋(※2)	スロープ (※3)	多目的 トイレ (※4)	エレベ- ーター (※5)	R2年度利用状況			施設にかかる費用 (※6)		
													日数	貸室の 稼働率	利用者数	H30	R1	R2
市域全体	子育て	長崎インクルージョン子育て支援センター「にこっと」	親子 相談 交流	296㎡	1998.3	24	-	○	-	×	○	-	-	-	-	-	-	-
	障害者支援	複合 障害福祉センター	障害者支援	12,391㎡	1991.10	30	-	○	-	○	○	○	346	40.5%	103,440	-	-	-
	保健	原子爆弾被爆者健康管理センター	医療	3,822㎡	1991.10	30	-	○	-	○	○	○	256	-	36,054	○	○	○
	博物館等	歴史民俗資料館	学習 文化	1,919㎡	1981.4	40	-	○	-	○	○	○	251	-	7,409	○	○	○
		野口彌太郎記念美術館	学習 文化	499㎡	1981.4	40	-	○	-	○	○	○	265	-	1,125	×	×	×
	平和	平和会館ホール	観光 学習 貸	2,577㎡	1981.5	40	-	○	-	○	○	○	292	14.6%	12,983	×	×	×
		永井隆記念館	観光 学習 本の貸出	305㎡	2000.3	22	-	○	-	○	○	○	305	-	62,310	○	○	○
		如己堂	観光 学習	8㎡	1948.3	74	-	×	-	○	×	-	-	-	-	○	○	○
		原子爆弾無縁死没者追悼祈念堂	観光 学習	286㎡	1994.6	27	-	○	-	×	×	-	-	-	-	○	○	○
		長崎原爆資料館	観光 学習 本の貸出	7,950㎡	1996.1	26	-	○	-	○	○	○	305	16.2%	236,310	○	○	○
	ホール	長崎ブリックホール	交流 文化 学習 本の貸出 貸	21,899㎡	1998.1	24	-	○	-	○	○	○	313	19.8%	69,250	○	○	○
コミュニティ	山里地区ふれあいセンター	交流 学習 本の貸出 貸	661㎡	2003.3	19	○	○	-	○	○	○	248	50.8%	23,741	○	○	○	
	浦上駅前ふれあいセンター	交流 学習 本の貸出 貸	1,010㎡	2008.2	14	○	○	-	○	○	○	248	46.8%	20,030	○	○	○	
	銭座地区コミュニティセンター	交流 学習 本の貸出 貸	678㎡	2005.3	17	-	○	-	○	○	○	247	41.0%	19,491	○	○	○	
	老人福祉センターあじさい荘	高齢者 交流 入浴 貸	862㎡	1969.3	53	-	○	-	×	×	×	208	-	10,036	○	○	○	
	学校	高尾小学校	教育	7,170㎡	1958.3	64	○	○	-	○	○	×	246	-	463	(※7)		
		山里小学校	教育	7,629㎡	1988.6	33	○	○	-	○	×	×	246	-	668			
坂本小学校		教育	5,481㎡	1956.3	66	○	○	-	○	○	×	246	-	213				
銭座小学校		教育	4,406㎡	1967.3	55	○	○	-	○	○	×	246	-	146				
山里中学校		教育	8,076㎡	1960.3	62	-	○	-	○	×	×	246	-	492				
放課後児童 クラブ	キラキラたかお／もりもりたかお(高尾小)	子ども	92㎡	1967.11	54	-	○	-	×	×	×	262	-	1,048	○	○	×	
	わくわくたかお(高尾小)	子ども	69㎡	2010.3	12	-	○	-	×	×	-	252	-	882	○	○	○	
	やまざとクラブ(山里小)	子ども	81㎡	2008.3	14	-	○	-	×	×	-	290	-	798	×	○	×	
	やまざとキッズハウス(山里小)	子ども	81㎡	2008.3	14	-	○	-	×	×	-	290	-	895	×	×	×	
	おおくす児童クラブ(坂本小)	子ども	140㎡	1956.3	66	-	○	-	×	×	×	290	-	919	○	○	○	

貸室の稼働率を記載している施設の部屋別の稼働率は次のとおりです。

種類	施設の名称	区分	稼働率	平均 稼働率
コミュニティ	山里地区ふれあいセンター	第1研修室	78.8%	50.8%
		第2研修室	62.8%	
		第3研修室	54.9%	
		調理室	6.7%	
	浦上駅前ふれあいセンター	第1研修室	75.5%	46.8%
		第2研修室	55.7%	
		第3研修室	39.9%	
		調理室	16.1%	
	銭座地区コミュニティセンター	第1研修室(A)	44.1%	41.0%
		第1研修室(B)	44.3%	
		第2研修室	42.8%	
		第3研修室	39.7%	
		第4研修室	65.3%	
		調理室	10.1%	
種類	施設の名称	区分	稼働率	平均 稼働率
障害者支援	障害福祉センター	軽スポーツ室	49.8%	40.5%
		研修室	36.8%	
		体育室(3コート)	66.6%	
		会議室	31.6%	
		調理訓練室	9.6%	
		和室研修室	20.1%	
		展示ホール	3.0%	
		パソコン室	36.3%	
		社会適応訓練室	29.7%	
		視聴覚室	29.2%	
		プール	81.1%	
		図書室	91.7%	
	平和会館	ホール	14.6%	14.6%
	長崎原爆資料館	ホール	16.2%	16.2%
種類	施設の名称	区分	稼働率	平均 稼働率
ホール	長崎ブリックホール	大ホール	24.6%	19.8%
		国際会議場	24.5%	
		リハーサル室	23.4%	
		練習室1	29.2%	
		練習室2	36.7%	
		練習室3	44.6%	
		会議室1	40.3%	
		会議室2	32.1%	
		会議室3	29.6%	
		会議室4	26.8%	
		会議室5	33.1%	
		和室1	13.6%	
		和室2	14.3%	
		茶室	4.1%	
		特別室1	7.8%	
		特別室2	11.2%	
		特別室3	12.3%	
		楽屋1	14.7%	
		楽屋2	15.0%	
		楽屋3	11.4%	
		楽屋4	7.8%	
		楽屋5	8.5%	
		楽屋6	7.8%	
		楽屋7	14.8%	
		楽屋8	15.2%	
		楽屋9	11.1%	

(2) 都市基盤施設

サービス 区域	種類	施設の名称		床面積	建築年月 (※1)	経過 年数	避難所	耐震性	使っていない 部屋(※2)	スロープ (※3)	多目的 トイレ (※4)	エレベーター (※5)	R2年度利用状況			施設にかかる費用 (※6)		
													日数	貸室の稼働率	利用台数	H30	R1	R2
市域全体	市営駐車場	茂里町駐車場	交通	2797.8㎡	2021.2	1	-	-	-	-	-	-	365		15,646	-	-	x
		浦上駅二輪車等駐車場	交通	448㎡	2022.1	0	-	-	-	-	-	-						
													R2年度利用状況					
													管理戸数 R3.4	入居率	入居戸数 R3.4			
	市営住宅	シュモイ住宅	住まい	2,565㎡	1976.4	45		○		x		x	40	87.5%	35	○	x	○
		若業住宅	住まい	4,557㎡	1991.4	30		○		○		○	58	98.3%	57	x	x	○
		三芳住宅	住まい	9,461㎡	1995.4	26		○		○		○	93	94.6%	88	x	x	x
		江平住宅	住まい	821㎡	2001.4	20		○		○		○	10	80.0%	8	○	○	○
		銭座住宅	住まい	2,286㎡	1978.4	43		○		x		x	32	62.5%	20	x	○	○

(3) 公用施設

サービス 区域	種類	施設の名称		床面積	建築年月 (※1)	経過 年数	避難所	耐震性	使っていない 部屋(※2)	スロープ (※3)	多目的 トイレ (※4)	エレベーター (※5)	R2年度利用状況			施設にかかる費用 (※6)		
													日数	貸室の稼働率	利用者数	H30	R1	R2
複数地区	消防	北消防署	消防	2,471㎡	2001.8	20	-	○	-	○	○	○				x	○	○
		北消防署浦上出張所	消防	182㎡	1977.6	44	-	○	-	x	x	x				x	x	x
-	その他	保健環境試験所	その他	2,951㎡	1990.3	32	-	○	-	x	x	○						
		動物愛護管理センター	その他	1,105㎡	1983.3	39	-	○	-	x	x	x						

※1・・・主たる建物が複数ある場合は、最も古い建物の建築年月を記載しています。

※2・・・使っていない部屋がある場合は「×」、ない場合は「-」と記載しています。

※3・・・段差がない場合には「-」と記載しています。

※4・・・車いすを回転できる広いスペース、オストメイト用汚物流し、ベビーチェア、着替え台、おむつ替えシート、介助用ベッドのいずれか一つでも備わっている場合は「○」と記載しています。
トイレがない場合には「-」と記載しています。

※5・・・1階のみの建物は、「-」と記載しています。

※6・・・市全体で同じ種類の建物と比較したときに利用者1人当たりの費用が平均より低い場合は○、高い場合は×と記載しています。

(利用者数を把握していない施設については、床面積1㎡あたりの費用で比較しています。)

※7・・・学校の利用者数は、R2.5.1現在の児童・生徒数です。

公共施設を見直すときのポイント（7つの視点）

(1) 市民利用型施設

サービス 圏域	種類	施設の名称	建築後 30年以上	地震に弱い	あまり利用 されていない	未使用の 部屋がある	バリアフリー ではない	地区内に 類似施設がある	費用が多く かかっている	合計
市域全体	子育て	長崎インクルージョン子育て支援センター「にこっと」					✓			1
	障害者支援	複 障害福祉センター	✓							1
	保健	合 原子爆弾被爆者健康管理センター	✓							1
	博物館等	複 歴史民俗資料館	✓					✓		2
		合 野口彌太郎記念美術館	✓					✓	✓	3
		平和会館ホール	✓		✓			✓	✓	4
	平和	永井隆記念館						✓		1
		如己堂	✓	✓			✓	✓		4
		原子爆弾無縁死没者追悼祈念堂					✓	✓		2
		長崎原爆資料館						✓		1
	ホール	長崎ブリックホール								0
地区	コミュニティ	山里地区ふれあいセンター						✓		1
		浦上駅前ふれあいセンター						✓		1
		銭座地区コミュニティセンター						✓		1
		老人福祉センターあじさい荘	✓				✓	✓		3
	学校	高尾小学校	学校施設は、児童生徒によりよい教育環境を提供する視点で、考えております。							
		山里小学校								
		坂本小学校								
		銭座小学校								
		山里中学校								
	放課後児童 クラブ	キラキラたかお／もりもりたかお(高尾小)	✓				✓	✓		3
		わくわくたかお(高尾小)					✓	✓		2
		やまざとクラブ(山里小)					✓	✓	✓	3
		やまざとキッズハウス(山里小)					✓	✓	✓	3
		おおくす児童クラブ(坂本小)	✓				✓	✓		3

(2) 都市基盤施設

サービス 圏域	種類	施設の名称	建築後30年以上	地震に弱い	あまり利用 されていない	未使用の 部屋がある	バリアフリー ではない	地区内に 類似施設がある	費用が多く かかっている	合計
市域全体	市営駐車場	茂里町駐車場					✓	✓		2
		浦上駅二輪車等駐車場								0
	市営住宅	シュモ一住宅	✓				✓	✓		3
		若葉住宅	✓					✓	✓	3
		三芳住宅						✓	✓	2
		江平住宅						✓		1
		銭座住宅	✓				✓	✓		3

(3) 公用施設

サービス 圏域	種類	施設の名称	建築後30年以上	地震に弱い	あまり利用 されていない	未使用の 部屋がある	バリアフリー ではない	地区内に 類似施設がある	費用が多く かかっている	合計
複数地区	消防	北消防署						✓		1
		北消防署浦上出張所	✓				✓	✓	✓	4
—	その他	保健環境試験所	✓				✓		✓	3
		動物愛護管理センター	✓				✓		✓	3

【7つの視点のチェックについて】

- 1…建てられてからの年数が30年以上のものに✓
- 2…耐震性がない建物に✓
- 3…市全体で同じ種類の建物と比較したときに平均より貸室の稼働率または入居率が低い場合に✓
貸室の稼働率または入居率がない施設は、1日当たりの利用者数が平均より低い場合に✓
- 4…使われていない部屋などがある場合に✓
- 5…入口にスロープ、2階以上の建物にエレベーター、多目的トイレのいずれか1つでもなければ✓
- 6…地区内に同じような使い方ができる施設がある場合に✓
- 7…施設にかかる費用が3か年のうち2か年以上×の場合に✓

※地区計画に記載している公共施設配置図、公共施設の情報及び利用者数などのグラフは、地区関係者の皆さまへ計画（案）のご意見等をお伺いした時点（令和5年1月）のものです。

5 将来の方向性

≪「5 将来の方向性」の見方≫

〇〇施設の 施設配置の 基本的な考え方	※将来の長崎の姿（2040 年）を踏まえた行政サービスの方向性と、施設配置についての、市の基本的な考え方を記載しています。
---------------------------	---

ア 現状及び課題

(個別施設名)	
<div>写真及び イメージ画像</div>	<div>【建築年】</div> <div>【開館時間】</div> <div>【休館日】</div> <div>【年間利用者数】</div> <div>【1日当たりの利用者数】</div> <div>【概要】</div> <ul style="list-style-type: none"> 施設の経緯や、現状、使われ方などを記載しています。
<div>【現状及び課題】</div> <ul style="list-style-type: none"> ハード、ソフト面における現状・課題を記載しています。 市民対話で出された主な意見などを記載しています。 	

イ 施設のあり方や見直しの方向性

※施設配置についての基本的な考え方と、市民対話で頂いた意見・アイデア等を踏まえて検討した、当該施設の今後のあり方や方向性を記載しています。

ウ ロードマップ

施設名称	今期	次期計画	備考
	～2029	2030以降～	
(A施設)			施設のあり方を検討する
(B施設)			適正管理を行う

今後見直しの検討が必要と判断した施設については、その実施期間を矢印で示しています。

当面、現施設を維持すると判断した施設については、矢印の記載を省略しています。

「施設のあり方や見直しの方向性」はロードマップにも簡潔に記載しています。

(1) 市民利用型施設

①障害者支援施設（障害福祉センター）

障害者支援施設の 施設配置の 基本的な考え方

少子高齢化及び人口減少が進むなかにおいても、障害児・者への支援の必要性は高いため、機能訓練、スポーツ・レクリエーション、文化・教養等の講座の実施など、障害者への福祉の増進を図ります。

障害者への福祉の増進を図るためには、障害者の生きがいを高めるとともに、社会参加・地域交流の促進や、相談、療育、スポーツ・レクリエーション等の各分野で、専門性を有した柔軟かつ適切なサービスを総合的に提供する拠点が必要です。

障害福祉センターは、在宅障害者福祉の拠点施設として建設され、以後、相談、療育、スポーツ・レクリエーション等の各分野で、専門性を有した柔軟かつ適切なサービスを総合的に提供することにより、障害者の生きがいを高めるとともに、社会参加・地域交流の促進を図ってきました。

また、障害者自立支援法（平成 25 年度からは障害者総合支援法）の施行により、国や地方において、障害者を地域で支える仕組みが強化されるなか、障害児・者支援の中心的役割を担う障害福祉センターのニーズは高まっており、障害者数も依然として増加傾向にあるなかで、現在の機能は将来にわたって維持していく必要があります。

障害福祉センターは、障害者の活動の場を確保し障害者を支援するための中心的な施設であり、専門的な機能が必要になることから、市内 1 か所の配置を維持し、交通アクセスを考慮した現在地に設置します。

なお、近年増加している発達障害児に対する支援にあたっては、子どもへの対応や訓練の方法が大人とは異なること、本人だけでなく保護者に対する指導やケアのほか、情報交流の場を確保することも重要です。そのため、センターを置く施設内において、発達障害児の療育機能を他の障害福祉サービス等に係る機能と分けることにより、発達障害に関する専門的な診察や訓練、相談等をより効果的に実施します。

ア 現状及び課題

障害福祉センター



【建築年】1991 年

【開館時間】9 : 00～17 : 00 （木・土曜日は 21 : 00 まで）

【休館日】第 4 日曜日、年末年始

【利用者数】103,440 人

【1 日当たりの利用者数】299 人 ※利用者数は令和 2 年度実績

【概要】

- 障害者等の福祉の増進を図るための施設です。
- 原子爆弾被爆者健康管理センターが併設されています。


【現状及び課題】

- 駐車場は 38 台分が確保されています。
- 近年増加している発達障害児に対する支援にあたっては、訓練方法が大人とは異なり、保護者に対する指導ケアのほか、情報交流の場の確保が必要です。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

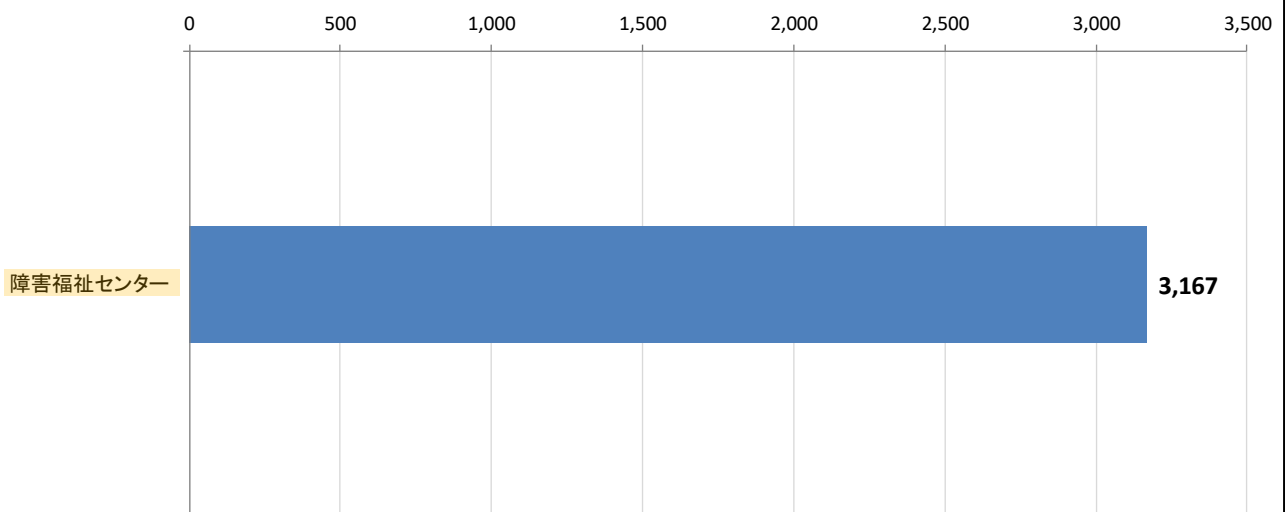
- 障害福祉センターについては、同じ建物の 6 階、7 階及び 8 階の一部に設置している原子爆弾被爆者健康管理センターの廃止または規模の縮小に合わせて、発達障害児の療育機能の拡充を検討します。

ウ ロードマップ

施設名称	今期	次期計画	備考
	～2029	2030 以降～	
障害福祉センター			適正管理を行う 発達障害児の療育機能の 拡充を検討する

障害福祉センターの利用者1人当たりのコスト(令和2年度実績)

(単位:円)



②保健施設（原子爆弾被爆者健康管理センター）

保健施設の 施設配置の 基本的な考え方	医療の空白時間帯である夜間や年末年始の診療サービス及び離島やへき地など、民間による医療が不足している地域の診療サービスを行い、市民の健康を維持するため、保健施設を配置します。
---------------------------	---

ア 現状及び課題

原子爆弾被爆者健康管理センター



【建築年】1991 年

【開館時間】月～金曜日 9：00～11：30

13：00～16：00

第3日曜日のみ 9：00～12：00

【休診日】土日祝日、年末年始

【利用者数】36,054 人

【1日当たりの利用者数】141 人 ※利用者数は令和2年度実績

【概要】

- 原子爆弾被爆者の健康の保持及び福祉の増進を図るための施設です。
- 障害福祉センターが併設されています。

【現状及び課題】

- 駐車場がありません。
- 市民対話では、
「原子爆弾被爆者健康管理センターが廃止されたら困る人が出てくる。」
「原子爆弾被爆者健康管理センター廃止後のスペースに障害福祉センターと機能が似ている子育て支援センター「にこっと」を移転してはどうか。」
という意見が出されました。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

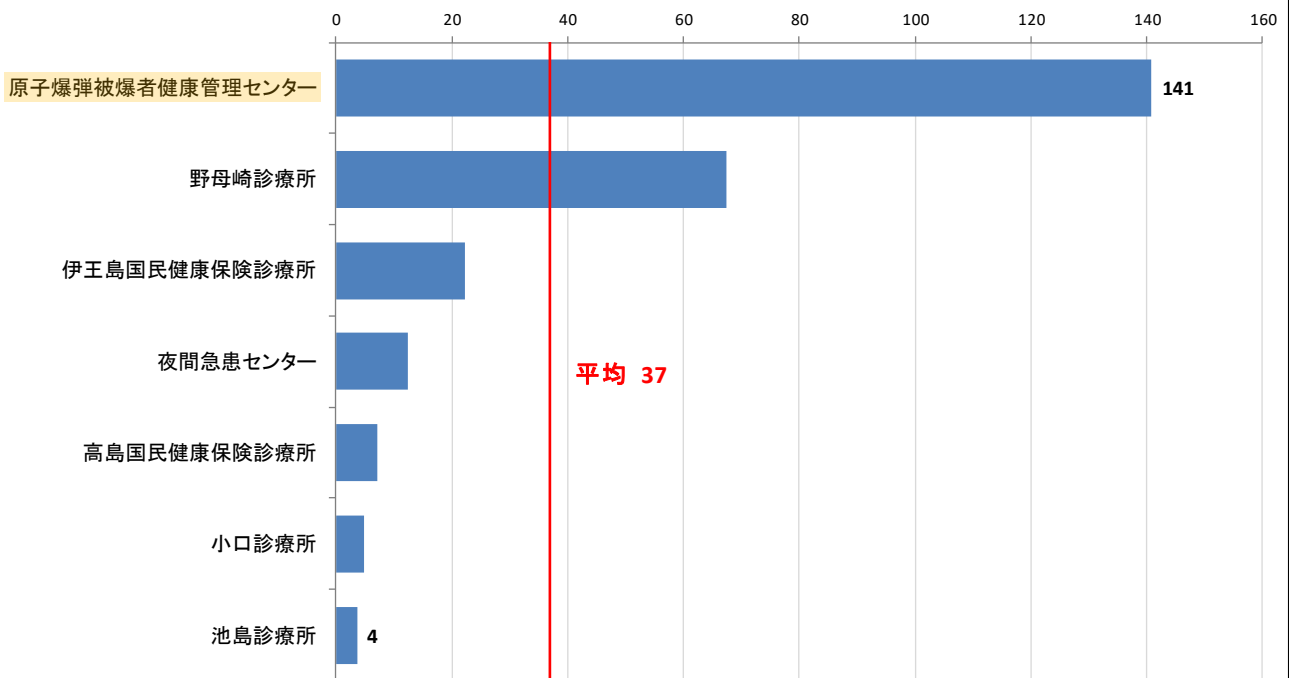
- 原子爆弾被爆者健康管理センターについては、被爆者が安心して生活できるよう、健康診断は継続して実施していきますが、被爆者健康診断は、当該施設のみならず、公営及び民営の機関でも実施することができるため、代替機能の確保を前提に将来的には施設は廃止する考えです。

ウ ロードマップ

施設名称	今期	次期計画	備考
	～2029	2030以降～	
原子爆弾被爆者健康管理センター			代替機能の確保を前提に施設は廃止する

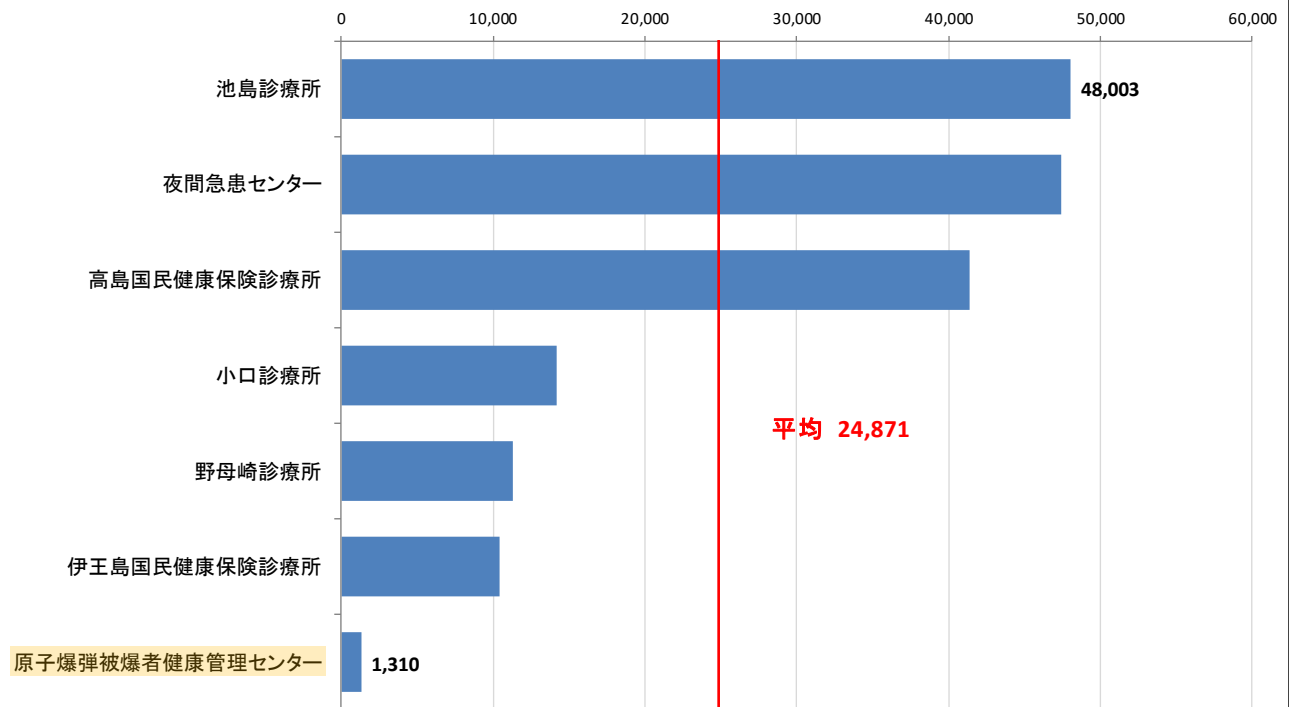
保健施設の開館1日当たりの利用者数(令和2年度実績)

(単位:人)



保健施設の利用者1人当たりのコスト(令和2年度実績)

(単位:円)



③博物館等（野口彌太郎記念美術館、歴史民俗資料館）

博物館等の
施設配置の
基本的な考え方

博物館等は、関連する資料を収集、保管、展示し、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うことで、教育の振興や、学術及び文化の発展に寄与することなどを目的に設置しています。

また、地域の特徴的な歴史文化遺産を明らかにし、顕在化することで、自分の街への誇りや愛着の涵養や、ひいては地域活性化にもつなげます。

今後とも、貴重な資料を保存し、研究していくとともに地域独自の文化、歴史を適切な場所から発信していく必要があり、更に観光資源としても活用し、交流人口の拡大につなげます。

一方、展示物の老朽化等により設置当初の機能を果たせていないものや、展示物の移転・集約が可能な施設もあるため、全体として見直しを図ります。

ア 現状及び課題

野口彌太郎記念美術館



【建築年】1981 年

【開館時間】9：00～17：00

【休館日】月曜日（祝日を除く）、年末年始

【利用者数】1,125 人

【1日当たりの利用者数】4 人 ※利用者数は令和2年度実績

【概要】

- 平和会館の1階にあります。
- 野口彌太郎画伯の美術作品及び資料が展示されています。
- 歴史民俗資料館、平和会館ホールが併設されています。

【現状及び課題】

- 1日当たりの利用者数は4人で同種の施設の平均（71人）より少なくなっています。

歴史民俗資料館



【建築年】1981 年

【開館時間】9：00～17：00

【休館日】月曜日、年末年始

【利用者数】7,409 人

【1日当たりの利用者数】30 人 ※利用者数は令和2年度実績

【概要】

- 平和会館の地下1階にあります。
- 長崎の歴史資料及び民俗資料が収集・保存されています。

- 野口彌太郎記念美術館、平和会館ホールが併設されています。



【現状及び課題】

- 1日当たりの利用者数は30人で同種の施設の平均（71人）より少なくなっています。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

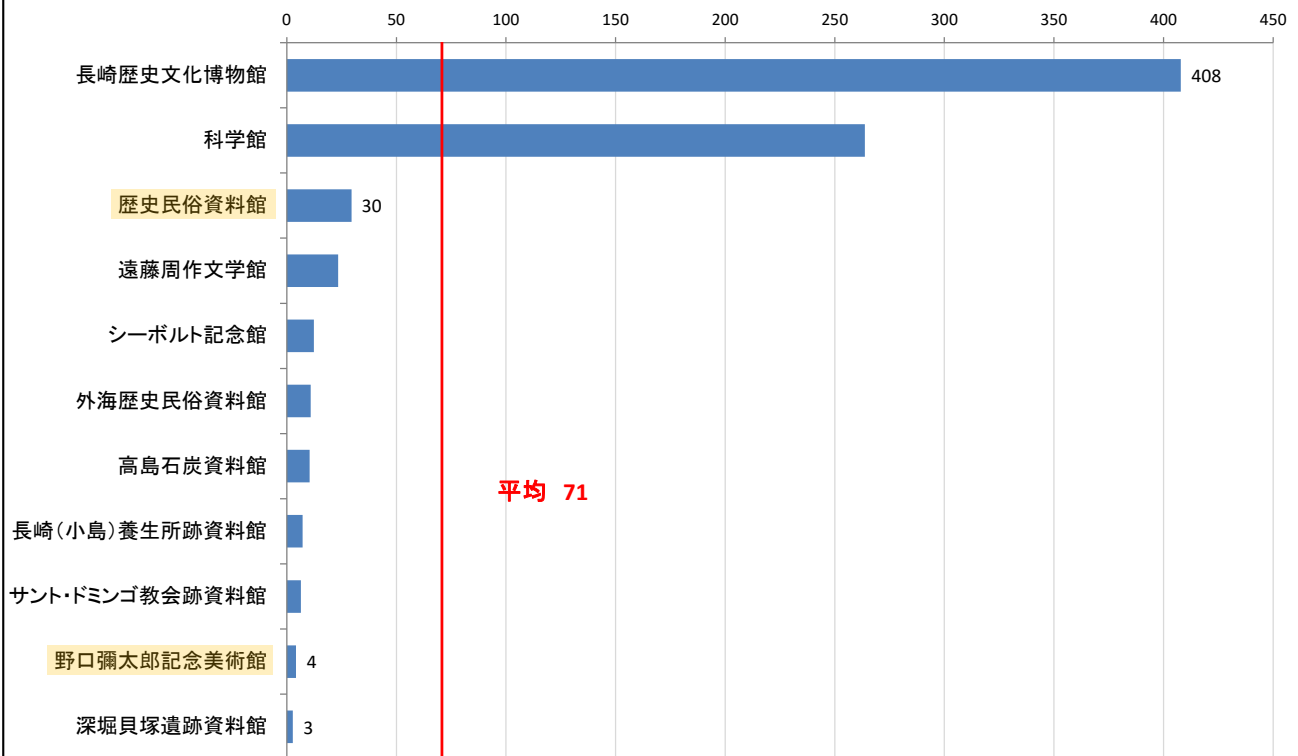
- 野口彌太郎記念美術館については、現在保存修理工事を行っている、大浦町にある旧長崎英国領事館の保存修理が完了次第、旧長崎英国領事館内へ機能を移転することとしています。
- 歴史民俗資料館については、現在、平和会館の地下に位置していますが、野口彌太郎記念美術館が旧長崎英国領事館に移転した後は、入館しやすい1階に移転する考えです。

ウ ロードマップ

施設名称	今期	次期計画	備考
	～2029	2030以降～	
野口彌太郎記念美術館			旧長崎英国領事館内へ機能を移転する
歴史民俗資料館			野口彌太郎記念美術館移転後のスペースに移転する

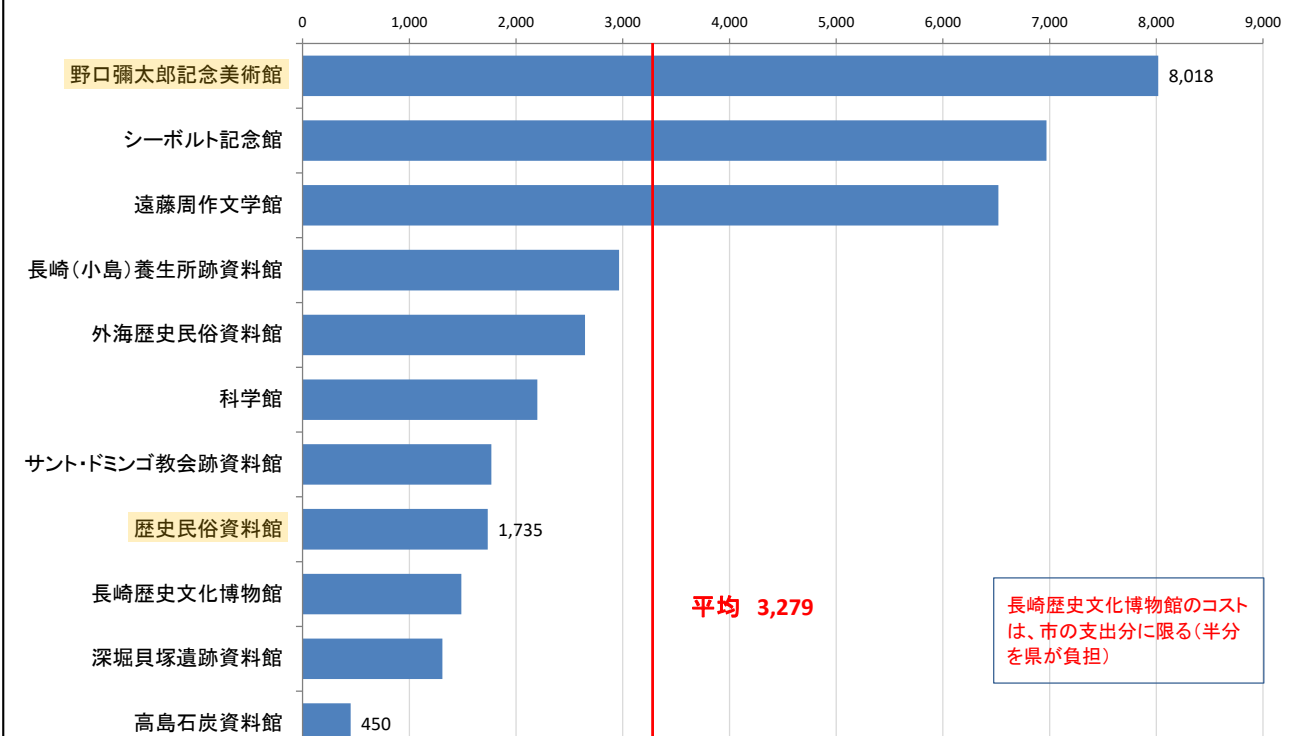
博物館等の開館1日当たりの利用者数(令和2年度実績)

(単位:人)



博物館等の利用者1人当たりのコスト(令和2年度実績)

(単位:円)



④平和施設（平和会館ホール、永井隆記念館、如己堂、原子爆弾無縁死没者追悼祈念堂、長崎原爆資料館）

平和施設の
施設配置の
基本的な考え方

平和施設は、被爆者が高齢化するなか、時代を超えて、被爆の実相を伝え、核兵器廃絶を訴える施設として必要であり、被爆都市の使命として、被爆の実相と長崎市民の平和の願いを広く国内外に伝えていきます。

ア 現状及び課題

平和会館ホール



【建築年】1981年

【開館時間】9:00～22:00

【休館日】月曜日、祝日の翌日、年末年始

【利用者数】12,983人

【1日当たりの利用者数】44人 ※利用者数は令和2年度実績

【概要】

- 3、4階のホールでは、平和学習、講演、各種イベント等が行われています。
- 歴史民俗資料館、野口彌太郎記念美術館が併設されています。

【現状及び課題】

- 築後40年を経過しており、老朽化が進行しています。
- 駐車場は83台分が確保されています。

永井隆記念館



【建築年】2000年

【開館時間】9:00～17:00

【休館日】年末年始

【利用者数】62,310人

【1日当たりの利用者数】204人 ※利用者数は令和2年度実績

【概要】

- 永井隆博士の遺徳を顕彰し、あわせて図書、その他の資料を市民の利用に供するための施設です。

【現状及び課題】

- 国内外から多くの来館者が訪れています。
- 駐車場はありません。

如己堂



【建築年】 1948 年
 【開館時間】 9 : 00～17 : 00
 【休館日】 年末年始

【概要】

- 永井隆博士の病床兼書斎となっていました。

【現状及び課題】

- 築後 70 年を経過しており、老朽化が進行しています。
- 駐車場はありません。

原子爆弾無縁死没者追悼祈念堂



【建築年】 1994 年

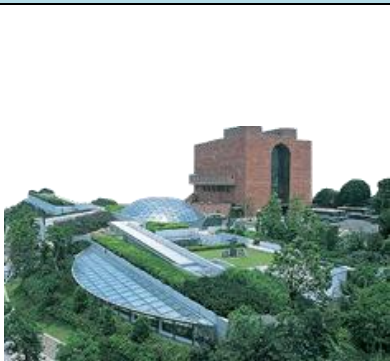
【概要】

- 原爆死没者の遺骨（身元や氏名不詳、引き取り手がない遺骨）が安置されています。

【現状及び課題】

- 氏名が判明している無縁遺骨については、1 柱でも多く、また、1 日も早く遺族のかたに引き渡すために遺族調査を行い、遺族が判明次第遺骨をお渡ししています。

長崎原爆資料館



【建築年】 1996 年
 【開館時間】 8 : 30～17 : 30 （5～8 月は 18 : 30 まで）
 【休館日】 年末年始
 【利用者数】 236, 310 人
 【1 日当たりの利用者数】 775 人 ※利用者数は令和 2 年度実績

【概要】

- 被爆の実相と長崎市民の平和への願いを広く国内外に伝え、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に寄与するため設置されています。


【現状及び課題】

- 駐車場は 83 台分が確保されています。
- 国内外から多くの来館者が訪れています。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

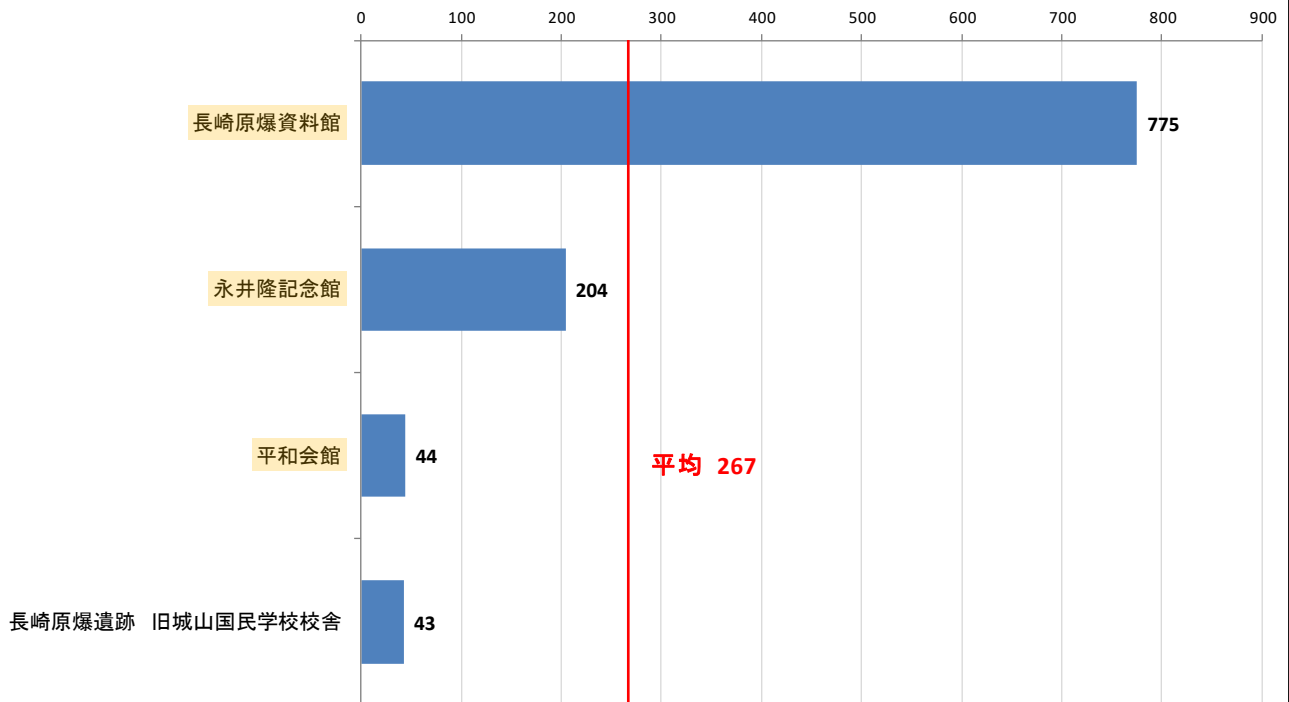
- 平和会館ホールが有している機能のうち、平和学習機能については利便性が高く簡易な移動手段で集いやすい現地において、引き続き維持していきませんが、公共ホール機能については、現市庁舎跡に建設予定の新たな文化施設の整備後に舞台設備を廃止し、利用機能を縮小することとしています。
- 永井隆記念館、如己堂、原子爆弾無縁死没者追悼祈念堂、長崎原爆資料館については、被爆者が高齢化するなか、時代を超えて、被爆の実相を伝え、核兵器廃絶を訴える施設として必要であり、被爆都市の使命として、被爆の実相と長崎市民の平和の願いを広く国内外に伝えていくことから、これからも必要な施設と考えていますので、現在の施設を適正に管理していきます。

ウ ロードマップ

施設名称	今期	次期計画	備考
	～2029	2030以降～	
平和会館ホール			適正管理を行う 新たな文化施設の整備後に舞台設備を廃止し、利用機能を縮小する
永井隆記念館			適正管理を行う
如己堂			
原子爆弾無縁死没者追悼祈念堂			
長崎原爆資料館			

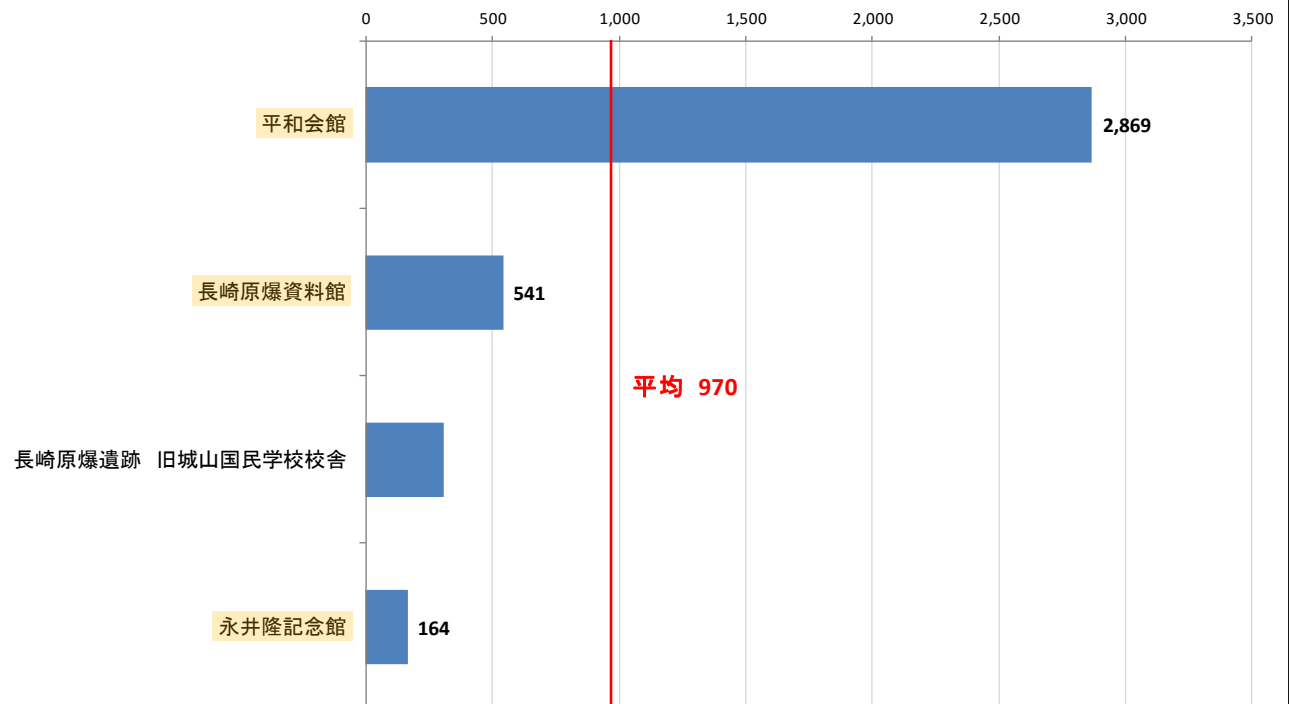
平和施設の開館1日当たりの利用者数(令和2年度実績)

(単位:人)



平和施設の利用者1人当たりのコスト(令和2年度実績)

(単位:円)



⑤ホール型施設（長崎ブリックホール）

ホール型施設の
施設配置の
基本的な考え方

人口減少や少子高齢化の進展など、社会環境が変化するなかにあっても、市民一人ひとりが心豊かな人生を送ることができるよう、文化に親しみ創造する機会を創出し、芸術文化の振興を図るとともに、市民が集い交流する場づくりを通じて市民生活の向上に寄与します。

芸術文化の振興のためには、文化活動に取り組む市民が練習やその成果を発表する場及び市民が芸術文化を鑑賞する場が不可欠であり、それらの機能を備えた拠点が必要となります。

また、市民が集い交流する場としても、誰もが利用できる拠点が必要となります。

一方、人口減少や少子高齢化が進む中、本市の経済の持続的な発展のためには、交流人口の拡大により、経済活性化を図ることが重要であり、国内外から多くの来訪者を呼び込むとともに、市民の交流を促進する拠点が必要となります。

ホール型施設は、全市施設として、公共交通機関の便がよく、市内全域から利用しやすい都心部及び都心周辺部に配置します。

ア 現状及び課題

長崎ブリックホール



【建築年】1998 年

【開館時間】9 : 00～22 : 00

【休館日】年末年始

【利用者数】69,250 人

【1日当たりの利用者数】221 人 ※利用者数は令和2年度実績

【概要】

- 長崎の芸術文化と国際交流の拠点となる文化情報交流施設として設置されています。
- 同じ建物には、令和5年3月から緑が丘地区子育て支援センター「ピクニック」が併設されています。

【現状及び課題】


- 都心周辺部の利便性が高い場所に設置されています。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

- 長崎ブリックホールについては、利便性の高い現在の場所に継続して配置する考えです。
- 現市庁舎跡に建設予定の新たな文化施設の整備後に、ブリックホールの国際会議場は芸術文化分野での利用に特化した音楽ホールへ改修することとしています。
- 1階交流スペース（旧レストラン）に、令和5年3月から緑が丘地区子育て支援センター「ピク

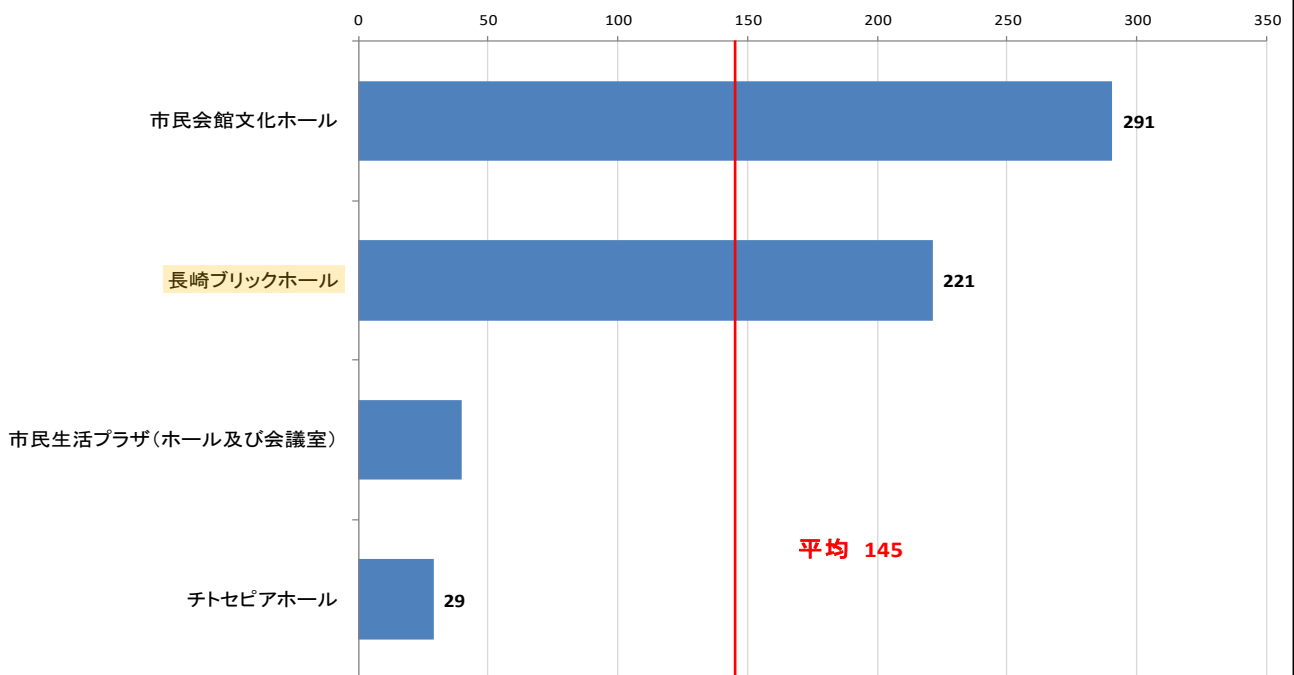
ニック」が入居しています。

ウ ロードマップ

施設名称	今期	次期計画	備考
	～2029	2030 以降～	
長崎ブリックホール			適正管理を行う 国際会議場は、新たな文化施設の整備後に音楽ホールへ改修する

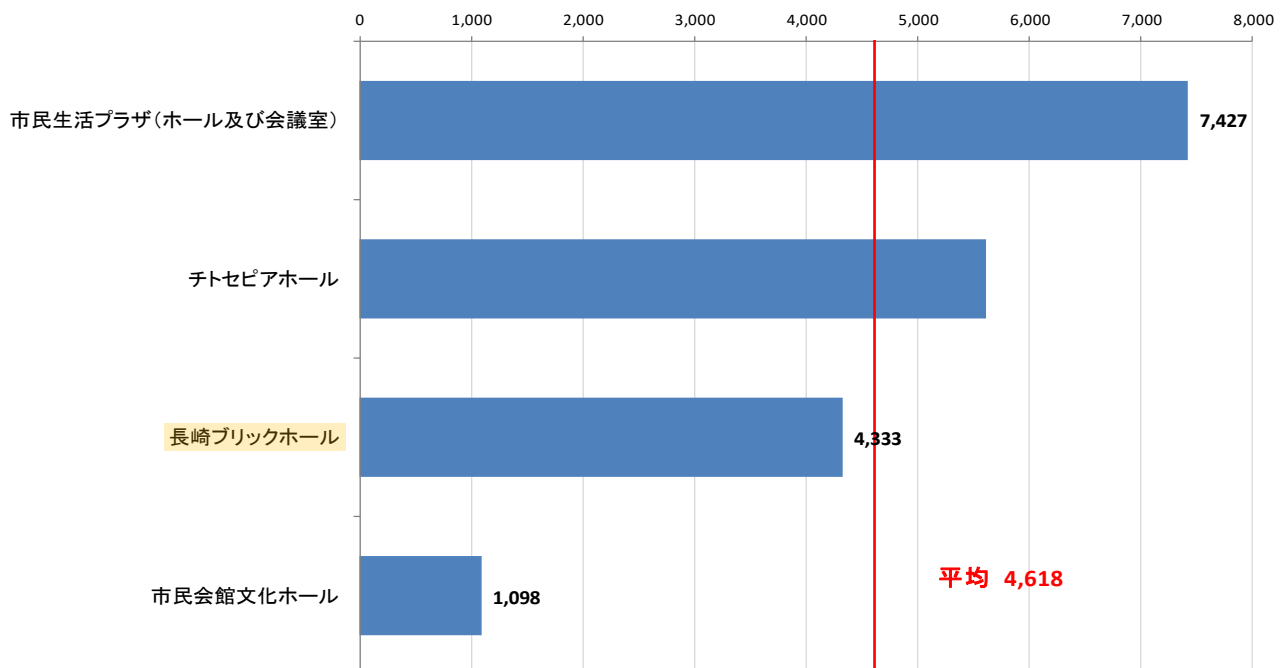
ホール型施設の開館1日当たりの利用者数(令和2年度実績)

(単位:人)



ホール型施設の利用者1人当たりのコスト(令和2年度実績)

(単位:円)

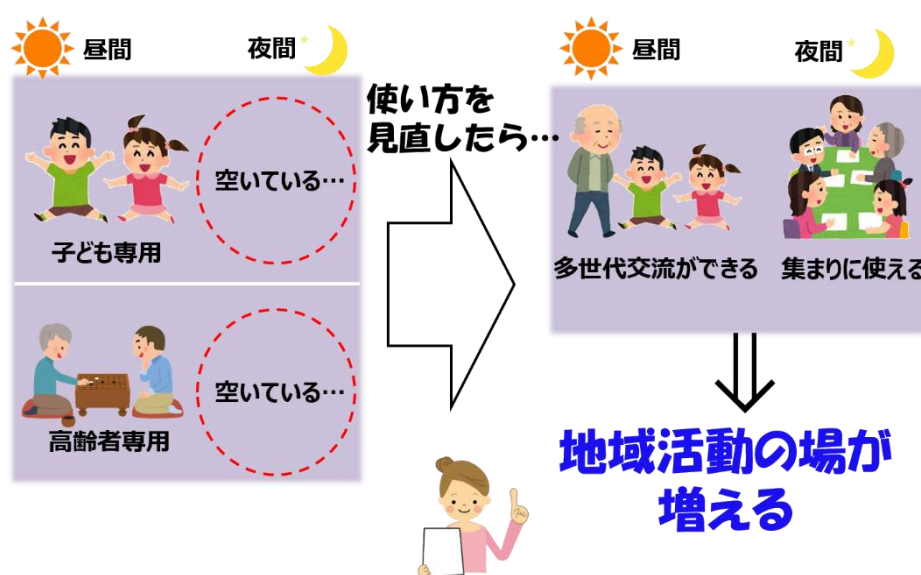


⑥コミュニティ活動施設（山里地区ふれあいセンター、浦上駅前ふれあいセンター、錢座地区コミュニティセンター、老人福祉センターあじさい荘）

人口減少、少子高齢化が進むなかで、地域住民がふれあい、共に助け合うことで地域の中で心地よく暮らせるような、住みよい地域社会づくりを目指しており、そのためには、住民が気軽に立ち寄れ、地域活動などが行える地域コミュニティの活動の場（「居場所」・「話し合いの場」・「活動の場」・「生涯学習の場」）が必要です。

今後は、ふれあいセンターや地区公民館など、地域の身近な施設に加え、特定年齢層を利用対象とした施設（児童厚生施設等）も、将来的に、多世代が利用できる施設へ利用方法や機能を見直し、身近な場所で、地域の子どもから高齢者までの多世代が活動する場を維持していきます。

コミュニティ活動施設の施設配置の基本的な考え方



施設の大規模改修又は建替え時期には、コミュニティの形成状況、人口動態、利用状況及び同地区内にある市の既存施設の状況なども考慮しながら、施設の廃止や施設規模及び機能の見直しを検討します。

(1) 小学校区に配置する施設

コミュニティ活動の場の配置については、市民に最も身近な場所でサービスを提供することができる範囲である、概ね小学校区へ配置します。

(2) 中学校区に配置する施設（兼小学校区施設）

多数の人数が見込まれる等の活動や行事のため、小学校区にある施設よりも広いスペースや特定の設備を備えた施設については、概ね中学校区での配置とします。中学校区に配置する施設は、小学校区に配置する施設を兼ねることとします。

なお、中学校区に配置する施設の標準規模は、延べ床面積 600 m²程度とし、集会室、会議室、調理室、図書室などの機能を有する施設を基本として配置

することとします。

(3) 広域的利用として配置する施設（兼中学校区施設）

中学校区を超えた大規模な催しや講座等が可能な施設として、中学校区にある施設よりも広いスペースやホールなど特定の設備を備えた施設については、都市計画マスタープランにおける地域拠点または交通の便の良い場所に3か所配置します。広域的利用として配置する施設は、中学校区に配置する施設を兼ねることとします。

(4) 全市的利用として配置する施設（兼広域的施設、兼中学校区施設）

広域的利用として活用する施設と同様に大規模な催しや講座等が可能な施設として、広いスペースやホールなど特定の設備を備えた中央公民館及び北公民館を交通の便利のよい都心部及び都心周辺部に配置します。

ア 現状及び課題

山里地区ふれあいセンター



【建築年】2003 年

【開館時間】9：00～17：00

【休館日】月曜日、年末年始

【年間利用者数】23,741 人

【1日当たりの利用者数】96 人 ※利用者数は令和2年度実績

【概要】

- 主に地域行事や集会、学習グループの活動などで利用されています。

【現状及び課題】

- 駐車場は6台分が確保されています。
- 市民対話では、
「ふれあいセンターでは、飲食ができないなど利用の制約があるため、ルールを変更することはできないか。」
「駐車場が狭いことが課題であり、隣接する山里中学校とタイアップすることで山里中学校の駐車場を使用するなど増やせるのではないか。」
という意見が出されました。

浦上駅前ふれあいセンター



【建築年】2008 年

【開館時間】9 : 00～17 : 00

【休館日】月曜日、年末年始

【年間利用者数】20,030 人

【1日当たりの利用者数】81 人 ※利用者数は令和2年度実績

【概要】

- 主に地域行事や集会、学習グループの活動などで利用されています。

【現状及び課題】

- 駐車場は7台分が確保されています。
- 坂本小学校区内に同じような使い方（地域の集まりや趣味教室など）ができる施設（老人福祉センターあじさい荘）があります。
- 市民対話では、
「浦上駅前ふれあいセンターには、こういった機能があるのかを知らない。」
という意見が出されました。

銭座地区コミュニティセンター



【建築年】2005 年

【開館時間】9 : 00～17 : 00

【休館日】日曜日、年末年始

【年間利用者数】19,491 人

【1日当たりの利用者数】79 人 ※利用者数は令和2年度実績

【概要】

- 主に地域行事や集会、学習グループの活動などで利用されています。

【現状及び課題】

- 駐車場はありません。

老人福祉センターあじさい荘



【建築年】1969 年

【開館時間】10 : 00～16 : 30

【休館日】日、祝日、年末年始

【年間利用者数】10,036 人


【1日当たりの利用者数】48 人 ※利用者数は令和2年度実績

	【概要】 <ul style="list-style-type: none"> 高齢者の方が入浴したり、談話やグループ活動、サークル活動などを通して健康の増進を図るための施設です。
【現状及び課題】 <ul style="list-style-type: none"> 駐車場は5台分が確保されています。 坂本小学校区内に同じような使い方（地域の集まりや趣味教室など）ができる施設（浦上駅前ふれあいセンター）があります。 市民対話では、 「将来的には、高齢者専用施設としてではない別のニーズが出てくるのではないか。」 という意見が出されました。 	

イ 施設のあり方や見直しの方向性

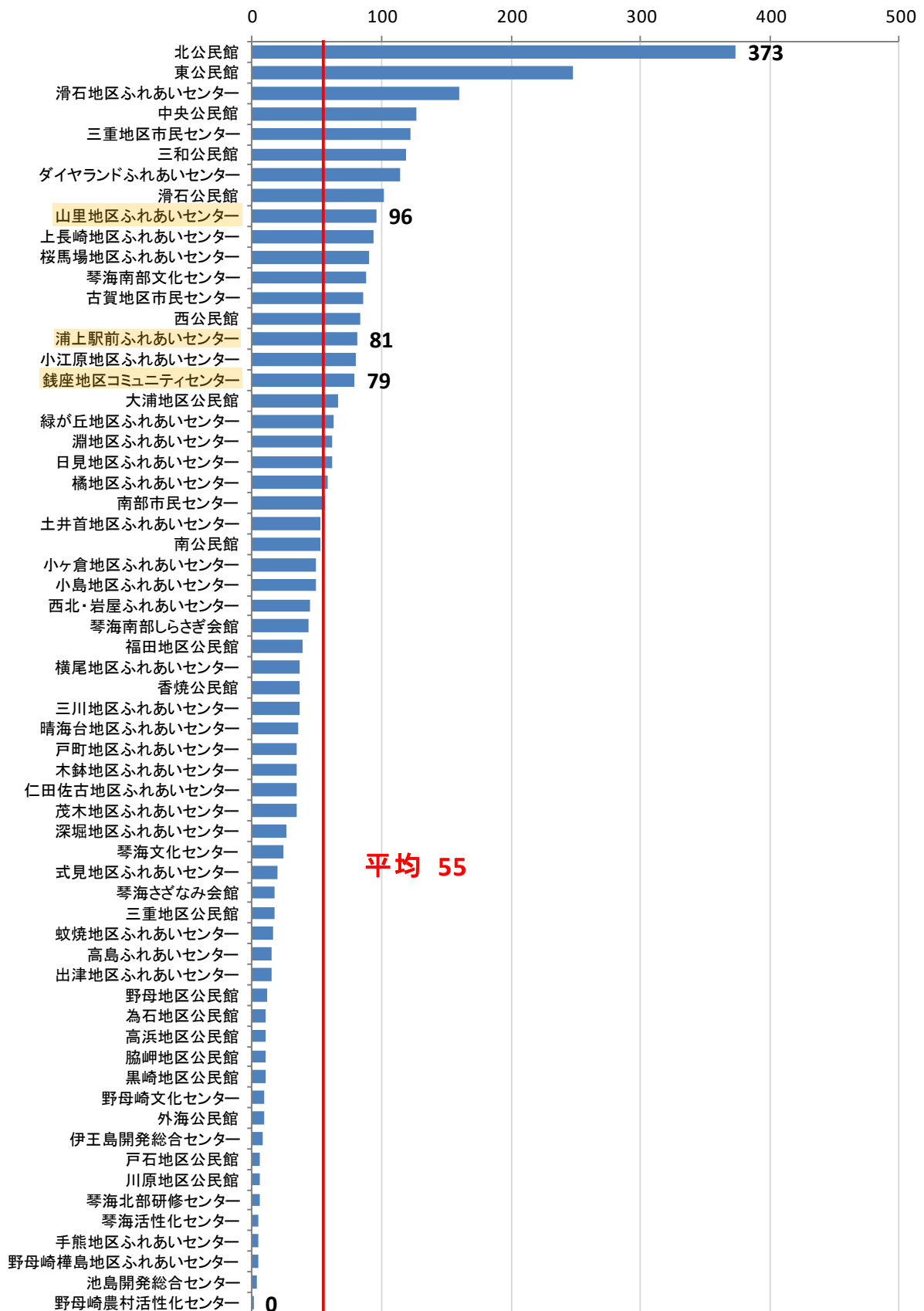
<ul style="list-style-type: none"> 山里・江平地区には4つの小学校があり、それぞれの小学校区ごとに、コミュニティ活動に使える場所が必要と考えます。 山里地区ふれあいセンター（高尾小学校区）、浦上駅前ふれあいセンター（坂本小学校区）、銭座地区コミュニティセンター（銭座小学校区）については、現在の施設を適正に管理します。 老人福祉センターあじさい荘（坂本小学校区）については、近隣に同じような使い方（地域の集まりや趣味教室など）ができる施設（浦上駅前ふれあいセンター）があることから、将来的には浦上駅前ふれあいセンターへ機能を集約することとし、高齢者専用施設としての用途は廃止します。 山里小学校区に配置する施設については、北消防署に併設されている大橋地域コミュニティ消防センターをもって機能を確保します。

ウ ロードマップ

施設名称	今期	次期計画	備考
	～2029	2030 以降～	
山里地区ふれあいセンター			適正管理を行う
浦上駅前ふれあいセンター			
銭座地区コミュニティセンター			
老人福祉センターあじさい荘			利用者数や設備の状況・耐用年数を踏まえ、高齢者専用施設としては適切な時期に廃止する

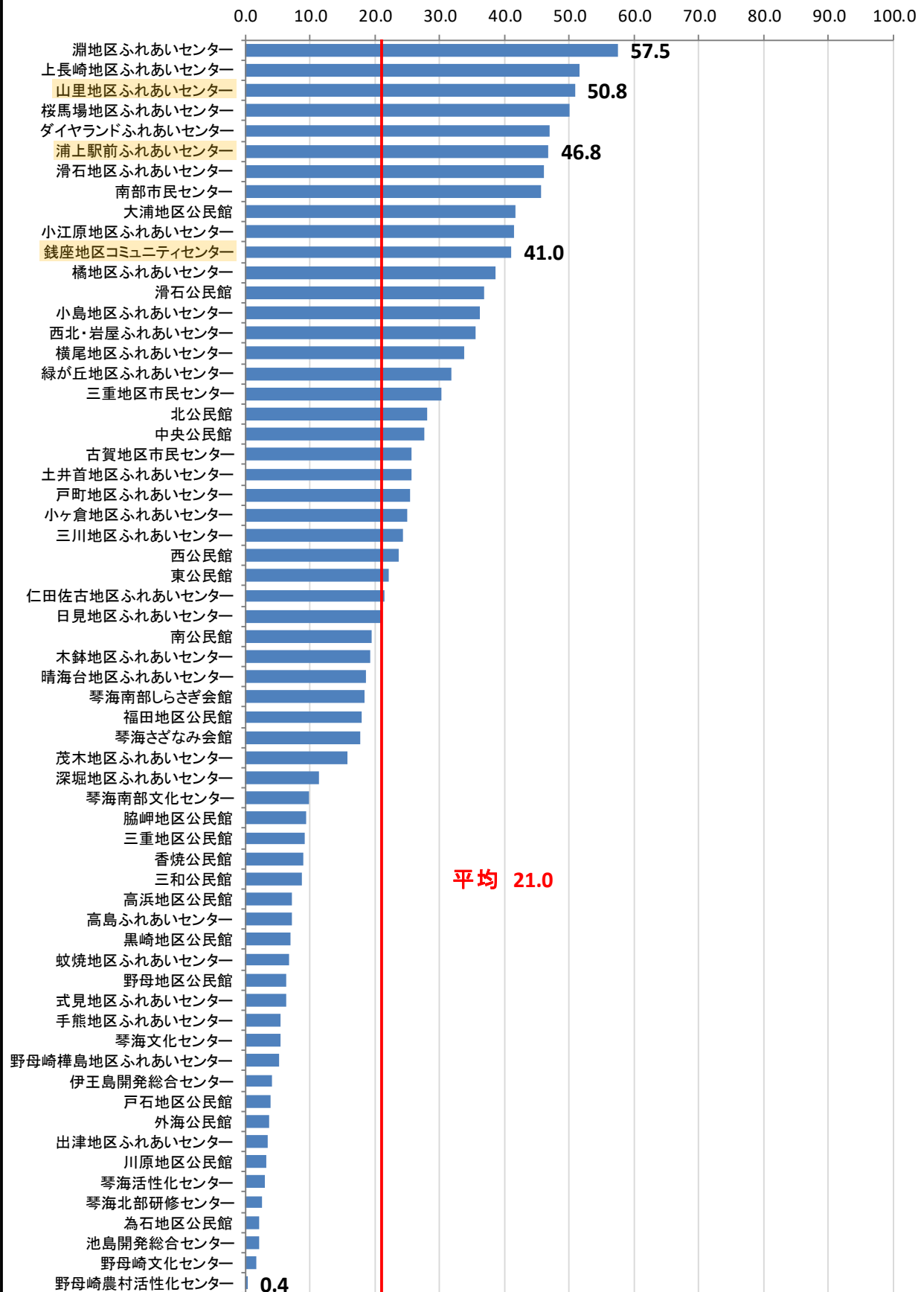
コミュニティ活動施設の開館1日当たりの利用者数(令和2年度実績)

(単位:人)



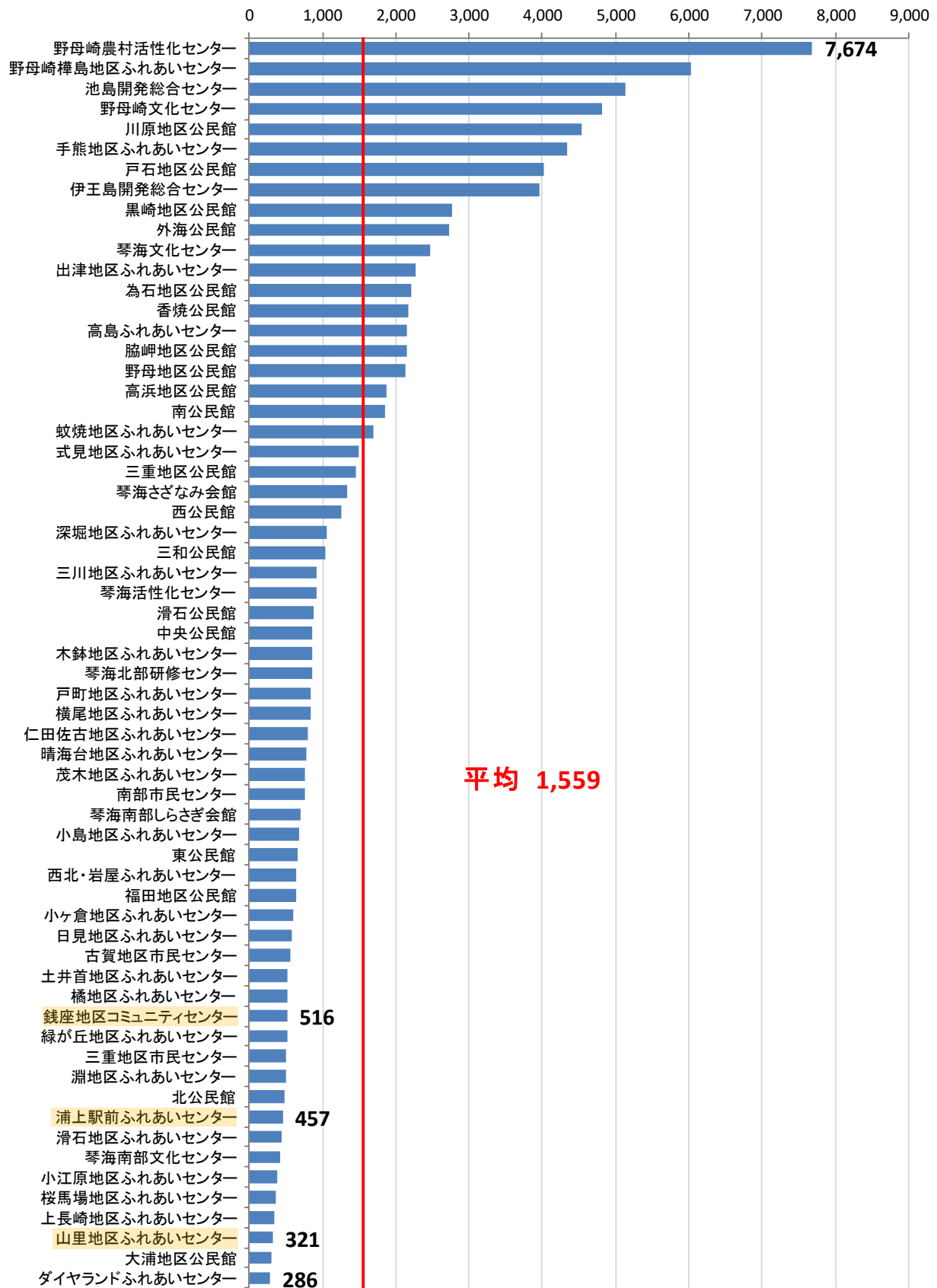
コミュニティ活動施設の貸室の稼働率(令和2年度実績)

(単位: %)



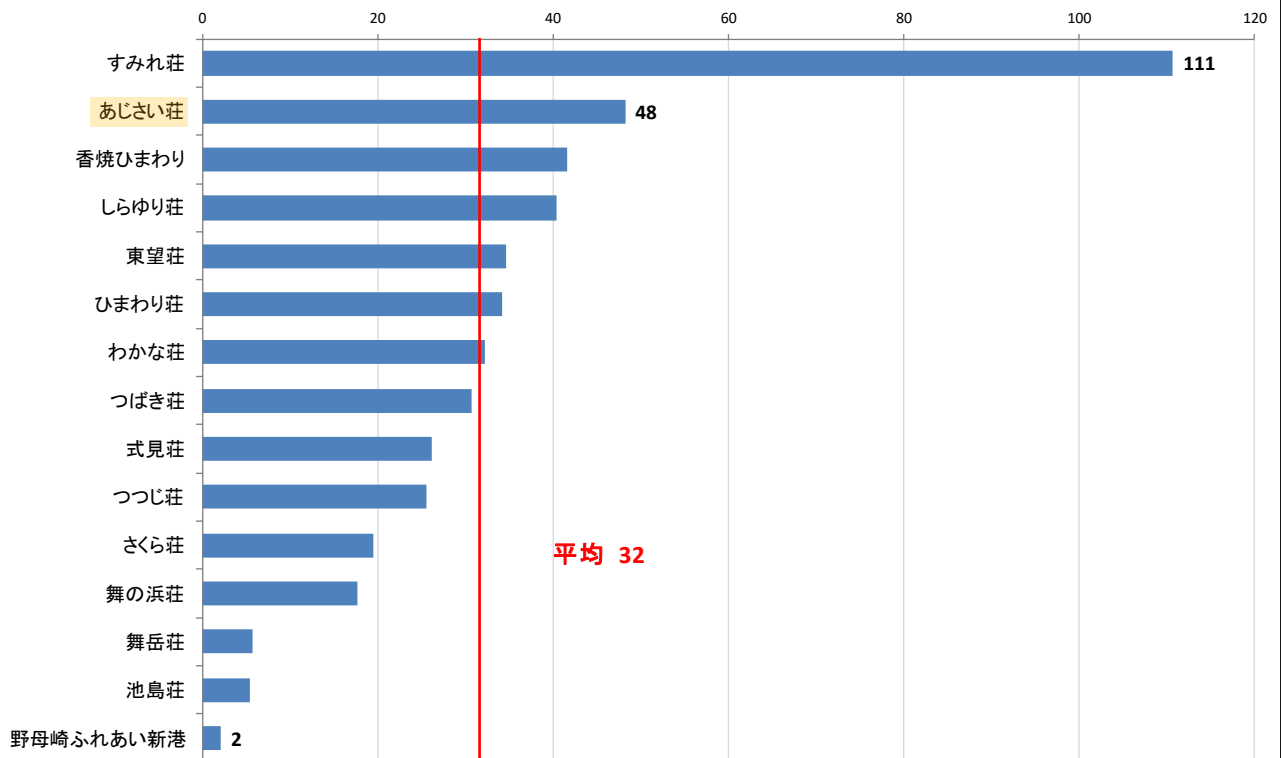
コミュニティ活動施設の利用者1人当たりのコスト(令和2年度実績)

(単位:円)



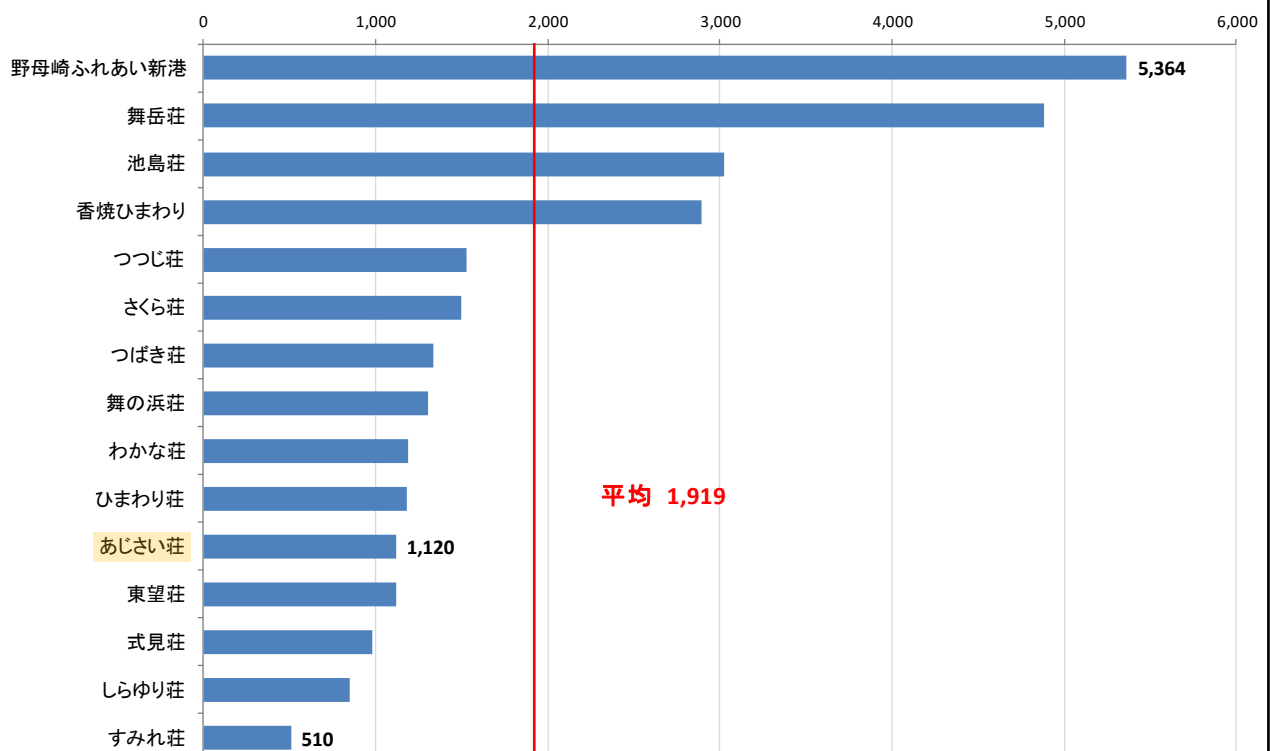
老人憩の家等の開館1日当たりの利用者数(令和2年度実績)

(単位:人)



老人憩の家等の利用者1人当たりのコスト(令和2年度実績)

(単位:円)



⑦学校（高尾小学校、山里小学校、坂本小学校、銭座小学校、山里中学校）

学校の施設配置
の基本的な考え方

学校は、児童生徒が確かな学力を身に付け、集団の中で社会性を育んでいく役割を担っています。また、学校行事や部活動などを通して人間性、協調性を育む場でもあります。

子どもたちは集団生活の中で学習することによって、知的にも社会的にも成長するため、一定の学校規模を確保する必要があります。

長崎市の小中学校の児童生徒数は、昭和 30 年代のピーク時と比較し、約 7 割減少していますが、その一方で、学校の数大きく変わっておらず、多くの学校で小規模化が進んでいます。

このような中、子どもたちが集団生活の中で活気に満ちた活動ができるような学校規模を確保するため、「望ましい学校規模」として、小学校にあっては、人間関係の固定化を防ぎ、集団の中で多様な考え方にふれ、切磋琢磨できるよう、クラス替えができる 12 から 18 学級としています。

中学校では、これらに加え、全教科に教員配置ができることや、部活動の十分な選択ができることなどの理由により、9 から 18 学級とし、小中学校の規模の適正化と適正配置に取り組みます。

また、児童生徒の通学については、原則徒歩通学としますが、バス等の交通機関の利用を認める場合は小学校においては通学距離 2 k m 以上、中学校においては 3 k m 以上の際に通学費の一定額を補助しており（小学校で 4 k m 以上、中学校で 6 k m 以上の場合は全額補助）、自宅から学校までバス等の交通機関の利用を含めて概ね 1 時間以内の範囲で適正配置を行います。

ア 現状及び課題

※児童・生徒数は令和 2 年 5 月 1 日現在

高尾小学校		山里小学校	
	【建築年】 1958 年 【児童数】 463 人		【建築年】 1988 年 【児童数】 668 人
坂本小学校		銭座小学校	
	【建築年】 1956 年 【児童数】 213 人		【建築年】 1967 年 【児童数】 146 人

山里中学校



【建築年】

1960 年

【生徒数】

492 人

共通

【現状及び課題】

- 半数以上の学校が建築後 50 年を経過しており、施設の老朽化が進行しています。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

- 「長崎市立小学校・中学校における規模の適正化と適正配置の基本方針」に基づく「学校規模の適正化と配置適正にかかる実施計画（案）」において、坂本小学校、銭座小学校は規模の適正化が必要な学校として位置付けられており、地域の状況や児童数の推移を見極めながら適正規模の確保に努めます。
- 今後とも、児童生徒数の推移を注視しながら、施設については、適正な維持管理に努めます。

ウ ロードマップ

施設名称	今期	次期計画	備考
	～2029	2030 以降～	
高尾小学校			適正管理を行う
山里小学校	→		適正管理を行う 地域の状況や児童数の推移を見極めながら学校規模の適正化と適正配置を行う
坂本小学校			
銭座小学校	→		適正管理を行う 地域の状況や児童数の推移を見極めながら学校規模の適正化と適正配置を行う
山里中学校			適正管理を行う

⑧放課後児童クラブ（たかおクラブ：キラキラたかお／もりもりたかお、たかおクラブ：わくわくたかお、やまざとクラブ、やまざとキッズハウス、おおくす児童クラブ）

放課後児童クラブ の施設配置の 基本的な考え方

子どもたちの放課後等における安全・安心な居場所の確保を図るために、小学校区ごとに放課後児童クラブを設置します。

児童数は、ほとんどの小学校において減少が見込まれるものの、保護者が安心して働けるよう、子どもたちの放課後等において、適切な遊びや生活ができる場所を提供する必要があるため、基本的には、小学校区ごとに利用見込みに応じた放課後児童クラブを配置することとしています。

放課後児童クラブの子どもの集団の規模は、放課後児童クラブ運営指針に基づき、子どもが相互に関係性を構築し、1つの集団としてまとまりをもって共に生活し、放課後児童支援員が個々の子どもと信頼関係を築くことができる規模として、概ね40人以下とします。

放課後児童クラブの配置については、学校の統廃合と併せて、事業者に対し放課後児童クラブの運営の統合を働きかけていくとともに、1つの事業者が複数の放課後児童クラブの運営を行うよう、調整を図ります。

また、学校の統廃合にかかわらず規模が小さい放課後児童クラブが生じる場合は、子どもたちの環境面や、クラブの運営面における影響を考慮し、特に利用児童数が10人以下の小規模の放課後児童クラブについては、適正な規模となるよう統合を図っていきます。

その際、放課後児童クラブが未設置校区となる児童については、既存の送迎支援に係る補助制度の利用を図りながら、安全面の確保を行っていきます。

新たな施設整備や施設の更新が必要となる場合は、事業者による施設整備を支援することで、子どもたちの放課後等における居場所の確保を図ります。

ア 現状及び課題

たかおクラブ：キラキラたかお／もりもりたかお



【建築年】1958年

【月平均利用者数】87人 ※月平均利用者数は令和2年度実績

【概要】

- 高尾小学校の余裕教室を利用して設置されています。

たかおクラブ：わくわくたかお



【建築年】2010 年

【月平均利用者数】42 人 ※月平均利用者数は令和 2 年度実績

【概要】

- 高尾小学校の敷地内に設置されています。

やまざとクラブ



【建築年】2008 年

【月平均利用者数】33 人 ※月平均利用者数は令和 2 年度実績

【概要】

- 山里小学校の敷地内に設置されています。

やまざとキッズハウス



【建築年】2008 年

【月平均利用者数】37 人 ※月平均利用者数は令和 2 年度実績

【概要】

- 山里小学校の敷地内に設置されています。

おおくす児童クラブ



【建築年】1956 年

【月平均利用者数】38 人 ※月平均利用者数は令和 2 年度実績


【概要】

- 坂本小学校の余裕教室を利用して設置されています。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

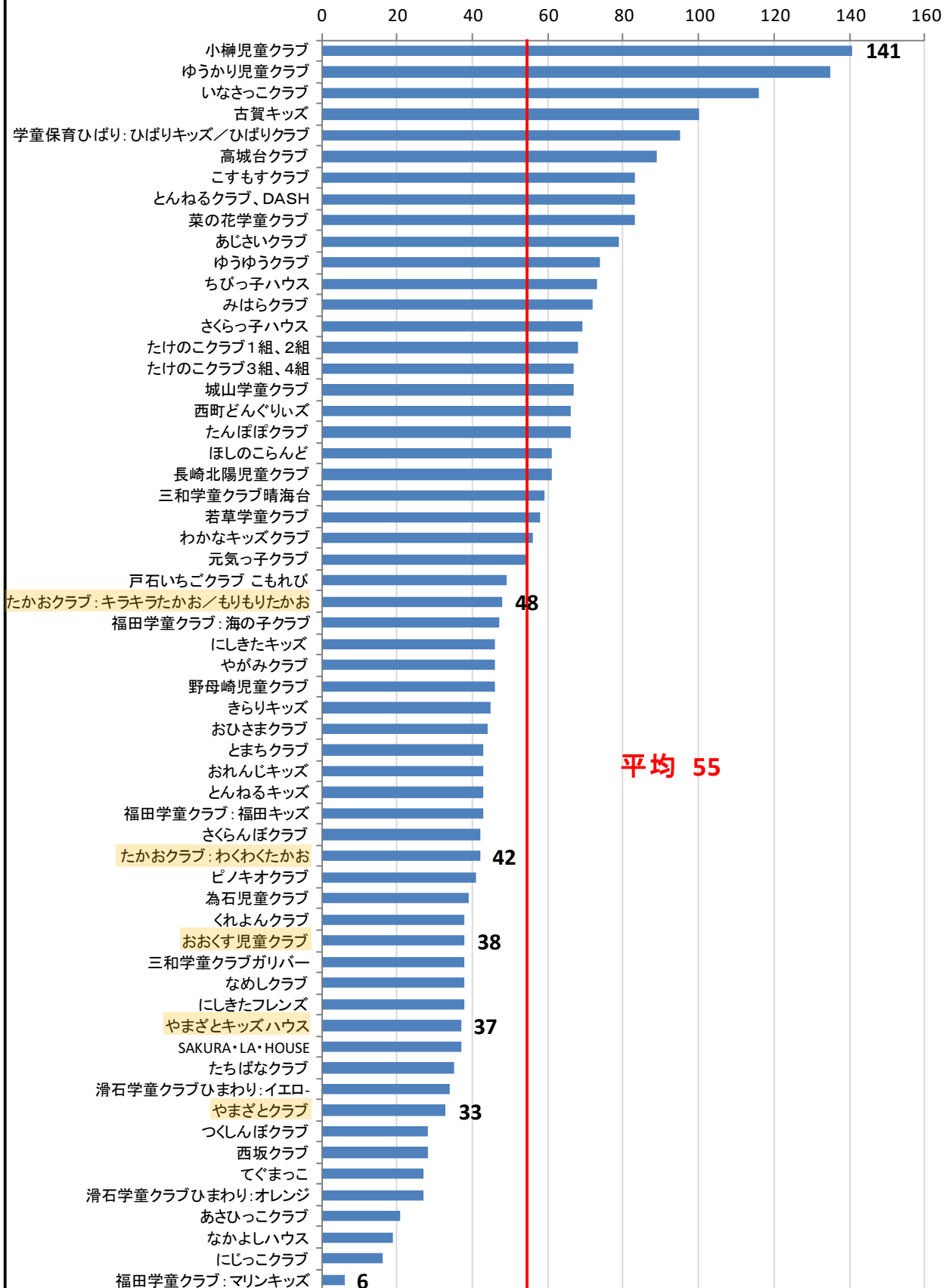
- 放課後児童クラブについては、今後も現在の施設を適正に管理していきますが、学校の適正配置が進んだ場合には、学校の統廃合と併せて、事業者に対し放課後児童クラブの運営の統合を働きかけていきます。
- 放課後児童クラブの多くは、小学校の敷地内にあるため、学校側との管理区分を明確にし、今後も安全性を確保しながら運営していきます。

ウ ロードマップ

施設名称	今期	次期計画	備考
	～2029	2030以降～	
たかおクラブ：キラキラたかお／ もりもりたかお			適正管理を行うとともに、学校の適正配置に併せ、事業者にクラブの統合を働きかけていく
たかおクラブ：わくわくたかお			
やまざとクラブ			
やまざとキッズハウス			
おおくす児童クラブ			

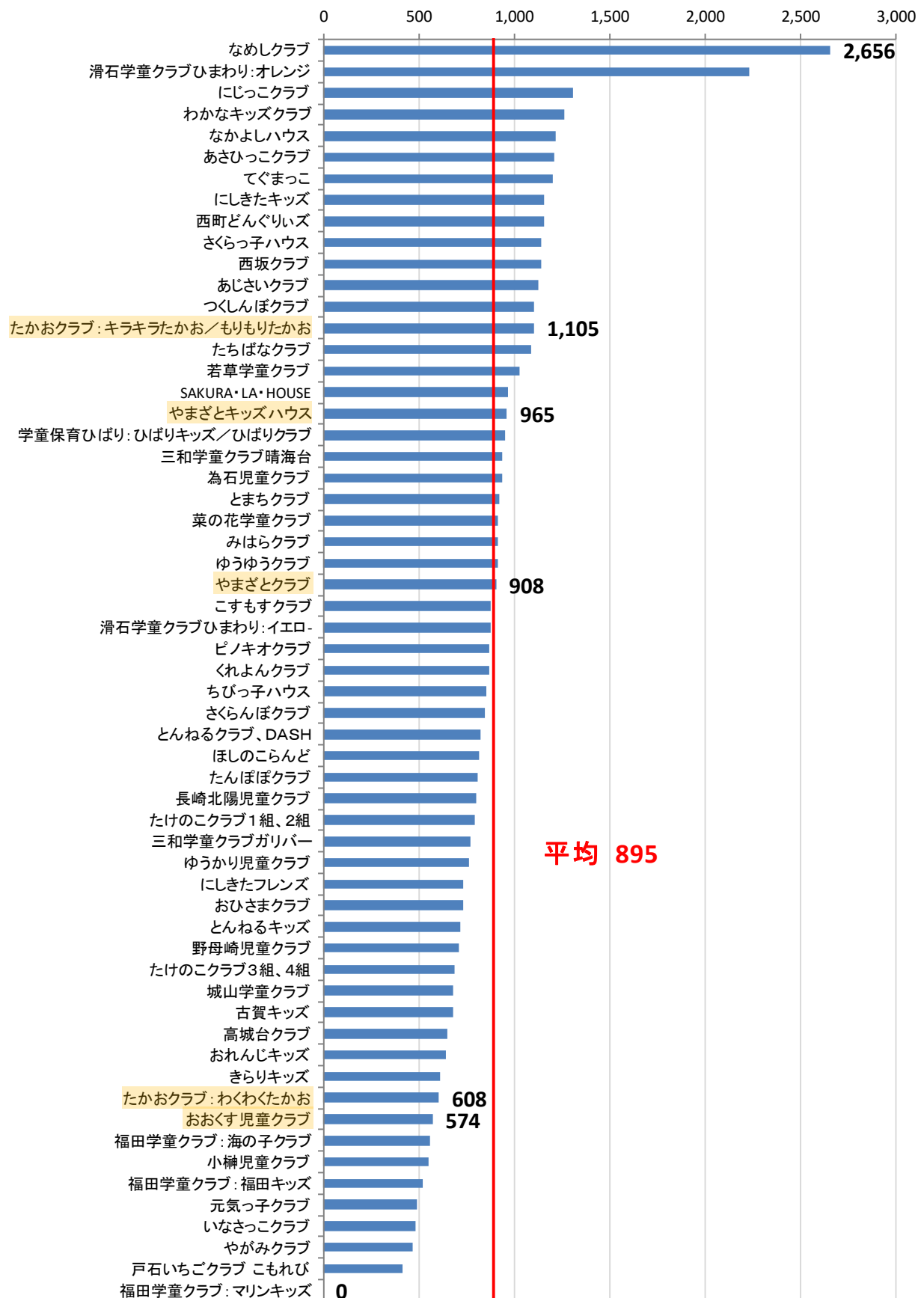
放課後児童クラブの施設ごとの月平均利用者数(令和2年度実績)

(単位:人)



放課後児童クラブの月平均利用者1人当たりのコスト(令和2年度実績)

(単位:円)



⑨子育て関連施設（発達支援特化型子育て支援センター「にこっと」、山里地区子育て支援セン

ター「あいあい」)

子育て関連施設の 施設配置の 基本的な考え方

少子化、核家族化、地域のつながりの希薄化など、家庭や地域の状況が変化してきたことにより、子育てに不安や負担を感じている保護者が増加しています。また、今後の人口減少により、更に状況が変化することが予想されますが、安心して子どもを生み育てることができ、地域や社会に見守られながら子どもたちが健やかに育つことができるよう、子育て支援機能を充実します。

そこで、子育ての不安感・負担感を軽減することを目的として、地域の身近な場所で保護者が気軽に相談、情報提供、交流ができる機能を持った子育て支援センターを設置します。当面の目標として、子ども・子育て支援事業計画に基づき、市内を16区域に区分し、利便性を勘案して、各1か所配置します。

設置にあたっては、市の既存施設の活用に加え、民間施設も活用しますが、活用できる施設がない場合には、新設について検討します。

また、発達障害のある子どもや発達が気になる子どもを育てる保護者の負担軽減を図るため、気軽に交流や相談等ができる発達障害支援に特化した子育て支援センターを市内に配置するとともに、利用者の実態やニーズを踏まえて、より良い施設のあり方及び場所についても検討します。

ア 現状及び課題

発達支援特化型子育て支援センター「にこっと」



【建築年】1998年

【開館時間】10:00～16:00

【休館日】日曜日、祝日、年末年始

【年間利用者数】8,726人

【1日あたり利用者数】34人 ※利用者数は令和6年度実績

【概要】

- 小学校低学年までの児童で、発達障害のある子どもや発達が気になる子どもを育てる保護者が気軽に集い、交流や相談ができる場所です。
- 市営三芳住宅E棟1階部分に設置しています。

【現状及び課題】

- 駐車場は12台分が確保されています。
- 市民対話では、
「もりまちハートセンターの6階、7階及び8階の一部に設置している原子爆弾被爆者健康管理センター廃止後のスペースに障害福祉センターと機能が似ている子育て支援センター「にこっと」を移転してはどうか。」
という意見が出されました。

山里地区子育て支援センター「あいあい」



【建築年】2023 年

【開館時間】10:00～16:00

【休館日】日、祝日、年末年始

【概要】

- 概ね3歳未満の児童と保護者が気軽に集まって自由に遊んだり、育児相談等を行うことができる場所です。
- 利用者と地域の方が子育てにおいて交流できるスペースを設けています。

【現状及び課題】

- 駐車場はありません。
- 市民対話では、
「天主公園前に新設される子育て支援センターについて、子どもを連れてくるのに車を使用される方もいるため駐車場が必要と考えられるが、敷地が狭いので駐車場はどのような状況か気になる。」
という意見が出されました。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

- 発達支援特化型子育て支援センターは、発達障害のある子どもや発達が気になる子どもを育てる保護者の負担軽減を図るため、気軽に交流や相談等ができるように現在の施設を引き続き適正に管理していきますが、利用者の実態やニーズを踏まえて、より良い施設のあり方及び場所についても検討します。
- 山里地区子育て支援センターは、安心して子どもを生み育てることができ、地域や社会に見守られながら子どもたちが健やかに育つことができるよう、施設を引き続き適正に管理します。

ウ ロードマップ

施設名称	今期	次期計画	備考
	～2029	2030以降～	
発達支援特化型 子育て支援センター「にこっと」	→		適正管理を行いながら 施設のあり方や場所について検討する
山里地区子育て支援センター 「あいあい」			適正管理を行う

(2) 都市基盤施設

①市営駐車場（茂里町駐車場、浦上駅二輪車等駐車場、若葉町二輪車等駐車場、大橋町二輪車等駐車場）

市営駐車場の施設配置の基本的な考え方	<p>市営駐車場は、大型公共施設や観光施設に隣接して適正に配置し、駐車需要を充足させることで、道路交通の円滑化及び安全で快適な都市環境の形成を図ります。</p> <p>普通車駐車場については、現在、市全体では充足しており、将来的には観光需要によりやや増加が見込まれますが、供給は確保されることから、一般利用者のための市営駐車場の必要性は低くなっていくものと考えます。</p> <p>しかしながら、公共施設等の利用者の利便性確保のために必要であることや、安定した料金収入も見込まれることから、当面は現施設を維持していくとともに、一部の駐車場については、隣接する公共施設の建替えや更新などの環境変化に対応し、附置義務駐車台数を確保することとしますが、必要性がなくなれば廃止します。</p> <p>大型バスの駐車場は、観光繁忙期において満車状態であり、今後も観光需要が増加していくと予想されることから、県市で連携して対応していきます。</p> <p>二輪車等駐車場は、市内中心部において不足しており、今後も同様な状況が継続するものと推測されることから、官民連携して整備を推進していきます。</p>
--------------------	---

ア 現状及び課題

茂里町駐車場



【建築年】2021 年

【営業時間】24 時間

【休業日】なし

【年間利用台数】15,646 台 ※利用台数は令和2年度実績

【1日当たりの利用台数】33 台

【概要】

- 主に長崎ブリックホールなどの施設利用者のための主要な駐車場です。
- 駐車可能台数：普通車 123 台 軽自動車 12 台

【現状及び課題】

- 茂里町駐車場はブリックホールの附置義務駐車場としての役割を担っています。

浦上駅二輪車等駐車場		若葉町二輪車等駐車場	
	【年間利用台数】 2,788 台 【1日当たりの利用台数】 8 台		【年間利用台数】 10,981 台 【1日当たりの利用台数】 30 台
大橋町二輪車等駐車場		【二輪車等駐車場の概要】	
	【年間利用台数】 10,375 台 【1日当たりの利用台数】 28 台	● 二輪車等の路上駐輪を防止し、道路交通の円滑化を図り、良好な生活環境を確保するために設置されています。	

イ 施設のあり方や見直しの方向性

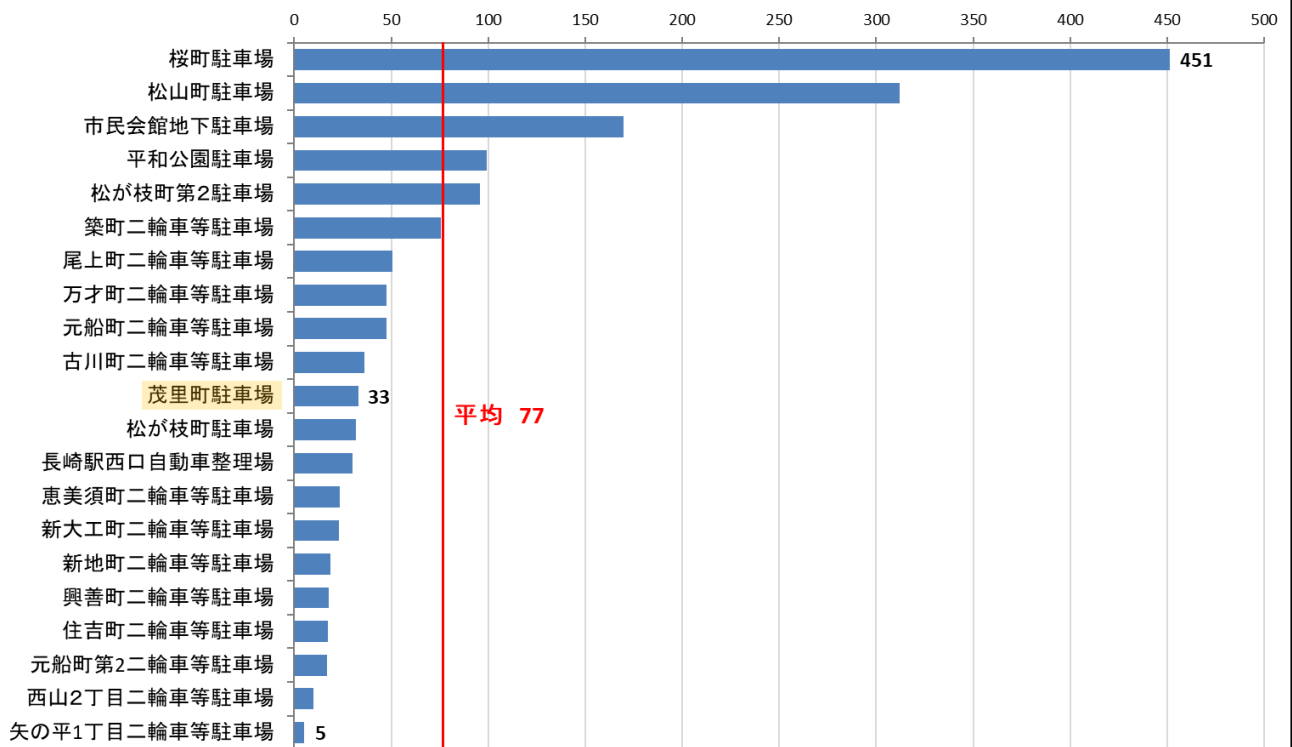
- 茂里町駐車場は、主にブリックホール利用者のための駐車場ですが、一般利用者の需要もあるため、今後も施設を適正に管理します。
- 浦上駅二輪車等駐車場については、周辺道路における二輪車等の路上駐輪の防止、道路交通の円滑化、良好な生活環境の確保のため、今後も現在のサービスを維持し、施設を適正に管理します。

ウ ロードマップ

施設名称	今期	次期計画	備考
	～2029	2030以降～	
茂里町駐車場			適正管理を行う
浦上駅二輪車等駐車場			
若葉町二輪車等駐車場			
大橋町二輪車等駐車場			

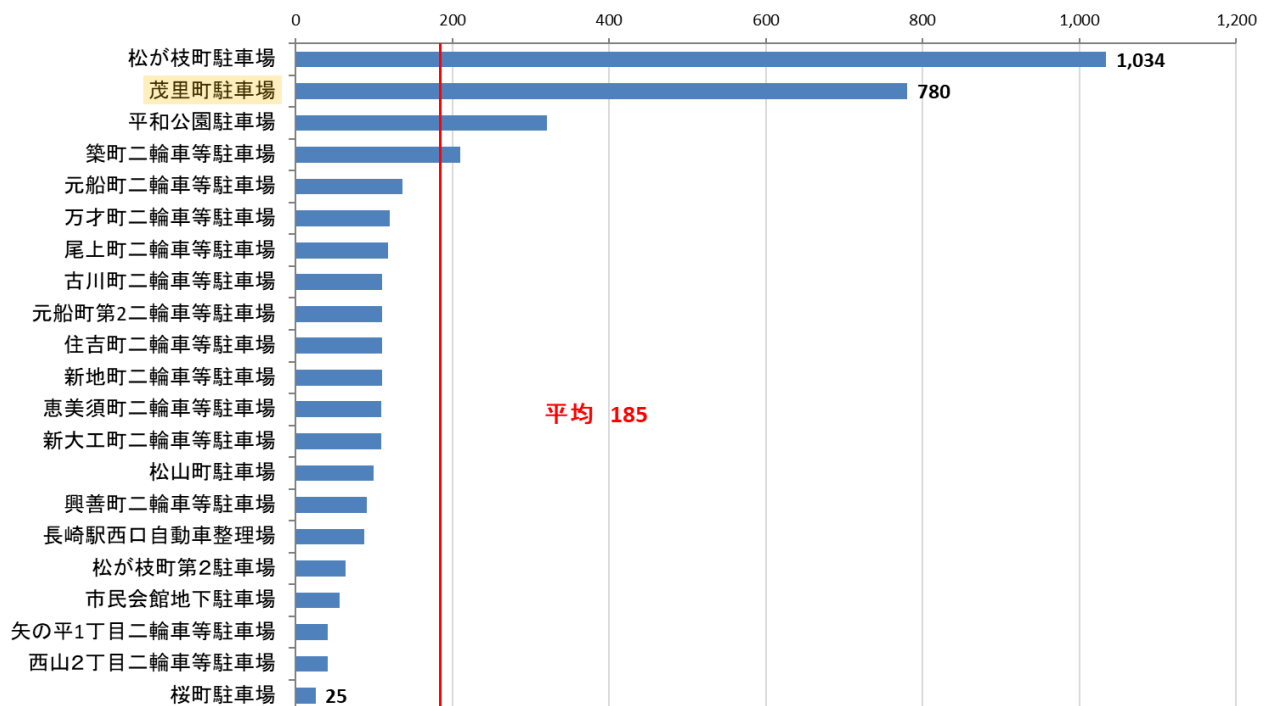
市営駐車場の営業1日当たりの利用台数(令和2年度実績)

(単位:人)



市営駐車場の利用1台当たりのコスト(令和2年度実績)

(単位:円)



②市営住宅（シュモー住宅、若葉住宅、三芳住宅、江平住宅、銭座住宅）

市営住宅の
施設配置の
基本的な考え方

将来の人口及び世帯数の減少により、市営住宅の需要は低下することが予想されますが、少子高齢化の進展や社会的弱者の多様化等の社会情勢の変化を踏まえ、民間賃貸住宅市場において最低居住水準の住居を確保できない低額所得者や、入居制限を受ける可能性がある高齢者や障害者、子育て世帯等の住宅困窮度の高い世帯などの、真に救済すべき世帯の推計を行い、それらを救済するセーフティネットとしての役割を重点的に担えるよう、住宅の確保を支援することで、市民生活の安定を図ります。

配置については、立地適正化計画によるコンパクトなまちづくりを進めていくことを踏まえ、市内各エリアにおける将来人口や特性を十分に勘案し、県営住宅も含めた公営住宅について、需要と供給のバランスが図れるよう、都心周辺部及び地域拠点の市営住宅は、適正な管理戸数を維持します。

その他の地区については、地域コミュニティが維持できるよう住宅需要や民間の動向を踏まえたうえで管理戸数の縮減を行います。

また、島しょ部については、現在行っている集約や用途廃止、除却等を継続し、管理戸数の縮減を推進します。

ア 現状及び課題

※管理戸数は令和3年4月1日現在

シュモー住宅		若葉住宅	
	【建 築 年】1976 年 【管理戸数】40 戸		【建 築 年】1991 年 【管理戸数】58 戸
三芳住宅		江平住宅	
	【建 築 年】1995 年 【管理戸数】93 戸		【建 築 年】2001 年 【管理戸数】10 戸

銭座住宅



【建 築 年】1978 年

【管理戸数】32 戸



【現状及び課題】

- 一部の市営住宅では老朽化が進行しています。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

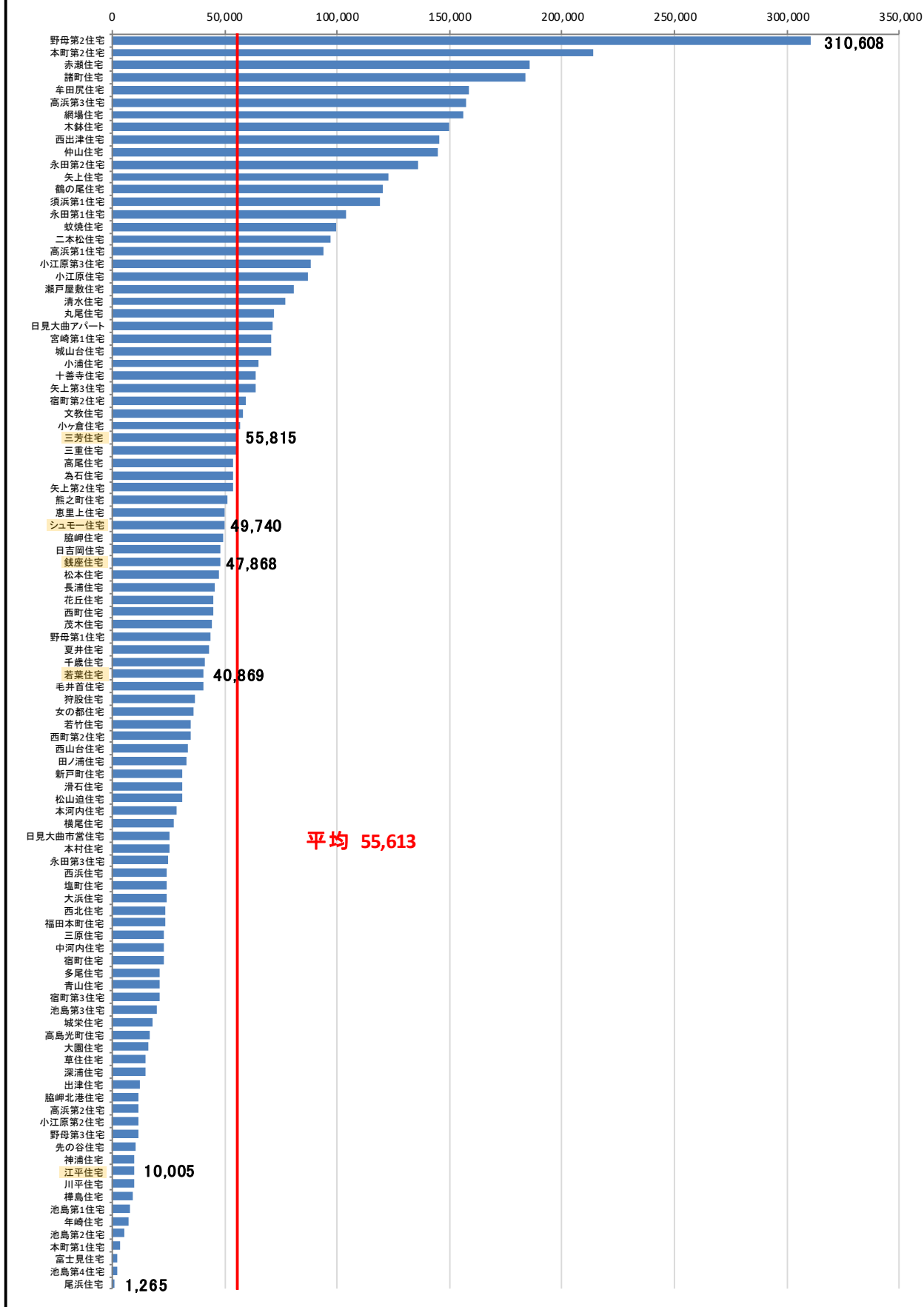
- 市営住宅については、現在の施設を適正に管理し、建替えなどの際には、人口や住宅需要などを勘案し、適切な規模への見直しを行います。

ウ ロードマップ

施設名称	今期	次期計画	備考
	～2029	2030 以降～	
シュモー住宅			適正管理を行う 建替えなどの際には、適切な規模への見直しを行う
若葉住宅			適正管理を行う
三芳住宅			
江平住宅			
銭座住宅			適正管理を行う 一部用途廃止を検討する

管理戸数1戸当たりの年間コスト(令和2年度実績)

(単位:円)



(3) 公用施設

① 消防施設（北消防署、北消防署浦上出張所）

消防施設の 施設配置の 基本的な考え方

人口減少が進むなか、消防体制の見直しを図りながら、効率的な適正配置に努め、将来にわたり市民が安全安心に暮らせる行政サービスの提供を行っていきます。

このためには、火災や自然災害等が発生した場合に、各地域での活動が効果的に行える活動拠点が必要となります。

消防施設のうち、常備消防庁舎については、人口分布、主要幹線道路の整備に伴う交通事情の改善や市街地の整備状況等を勘案しながら、市全域において火災・救急需要に適正な対応ができる位置に配置します。

中心市街地においては、木造住宅が密集する地域などに消防隊が迅速に到達できるよう、有効な場所へ拠点となる施設を配置します。その他の地域においては、人口分布や道路の状況を勘案して、当該地域の拠点となる場所に配置します。

また、離島地区については、当分の間は現行体制を維持することとしますが、将来的には消防艇など（救急の24時間対応を含む）の整備を検討し、並行して地域住民や各機関と連携を強化しながら、防火防災体制の充実に取り組みます。

配置数については、市全域において行政サービスを低下させることのないよう施設の移転及び統廃合を行い、重複している活動エリアの解消と、カバーが十分でなかった地域の充実を図ります。

消防団格納庫については、地域の実情に応じて消防団員の活動拠点となる位置に配置します。

ア 現状及び課題

北消防署



【建築年】2001年

【開庁時間】24時間

【休日】なし

【概要】

- 消防ポンプ自動車や高規格救急自動車、はしご自動車などを配備し、地域において消防、救急、救助活動などを行うための拠点となっています。
- 大橋地域コミュニティ消防センターが併設されています。

【現状及び課題】

- 効果的な消防活動を行うため、現在地に設置されています。

北消防署浦上出張所



【建築年】1977 年

【開庁時間】24 時間

【休庁日】なし

【概要】

- 消防ポンプ自動車を配備し、地域において消防、救助活動などを行うための拠点となっています。

【現状及び課題】

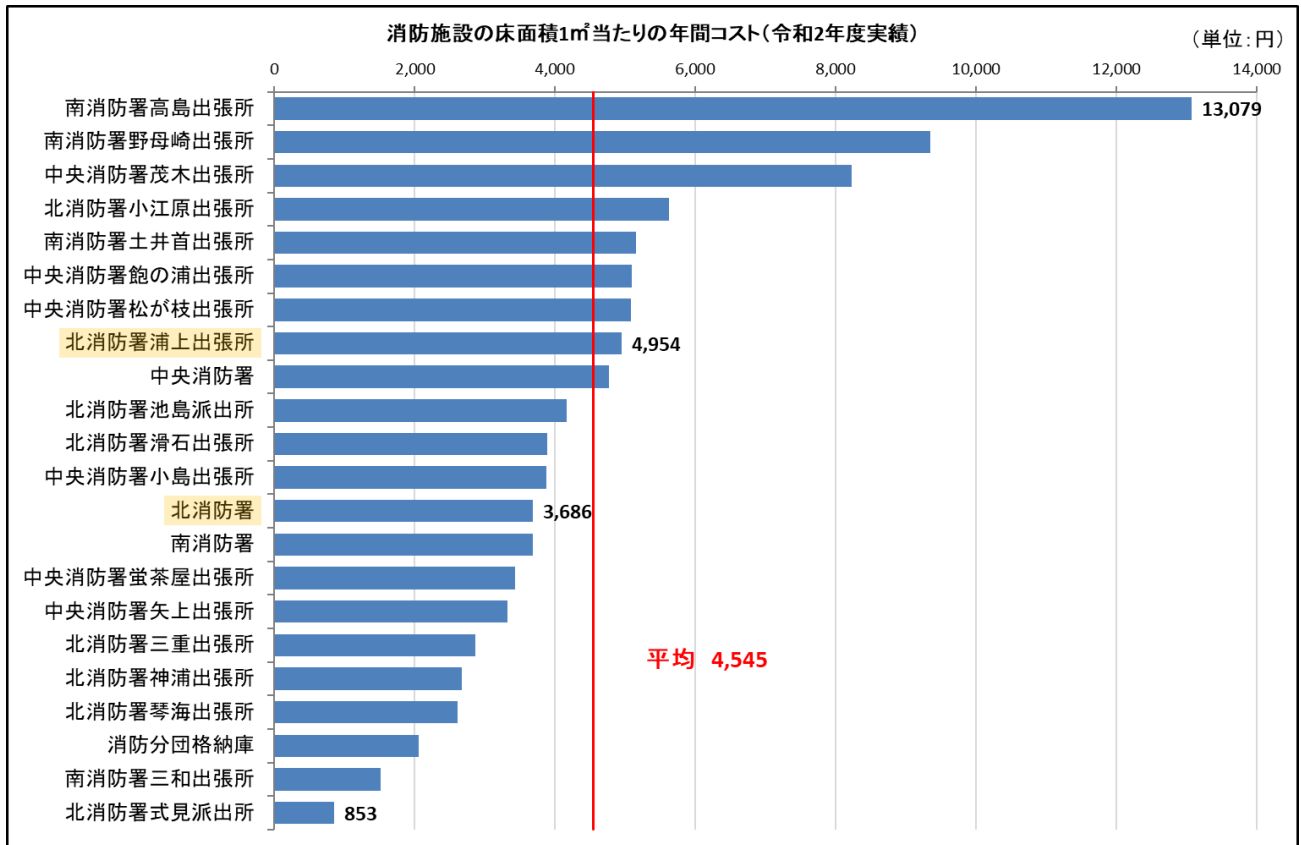
- 効果的な消防活動を行うため、現在地に設置されています。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

- 消防施設については、道路状況や隣接する消防施設の位置などを考慮したうえで、全市的な観点で計画的に配置を行います。
- 北消防署は、現在の施設を引き続き適正に管理します。
- 北消防署浦上出張所は、主要幹線道路の整備状況を見ながら、機能・配置の見直しを行います。

ウ ロードマップ

施設名称	今期	次期計画	備考
	～2029	2030 以降～	
北消防署			適正管理を行う
北消防署浦上出張所	→		主要幹線道路の整備状況を見ながら、機能・配置の見直しを行う



②その他事務所（保健環境試験所、動物愛護管理センター）

その他事務所の
施設配置の
基本的な考え方

施設の特異性やサービスの機動性確保のため、分散して配置していますが、より効率的な行政運営を図るために必要な施設配置へ見直します。

また、余剰スペースが生じている施設や、施設の集約化が可能な施設があることから、施設の複合化や統廃合を行うことにより、全体の施設規模の縮小を図ります。

ア 現状及び課題

保健環境試験所



【建築年】1990 年

【概要】

- 保健衛生に係る試験及び検査を行うために設置されています。

【現状及び課題】

- 建築から 30 年以上を経過しており、大規模な改修を必要とする時期を迎えています。

動物愛護管理センター（2024 年 4 月に保健環境試験所へ移転済）



【建築年】1983 年

【概要】

- 狂犬病の予防並びに動物の愛護及び管理を行うために設置されています。


【現状及び課題】

- 建築後 40 年弱が経過しており、老朽化が進行しています。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

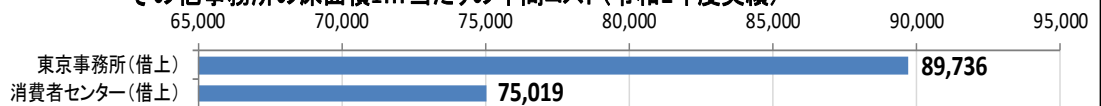
- 保健環境試験所については、現在の施設を引き続き適正に管理します。
- 動物愛護管理センターについては、令和 6 年度に保健環境試験所の建物へ移転しますが、移転後も、施設のあるべき適正な規模や場所については、継続して検討していきます。

ウ ロードマップ

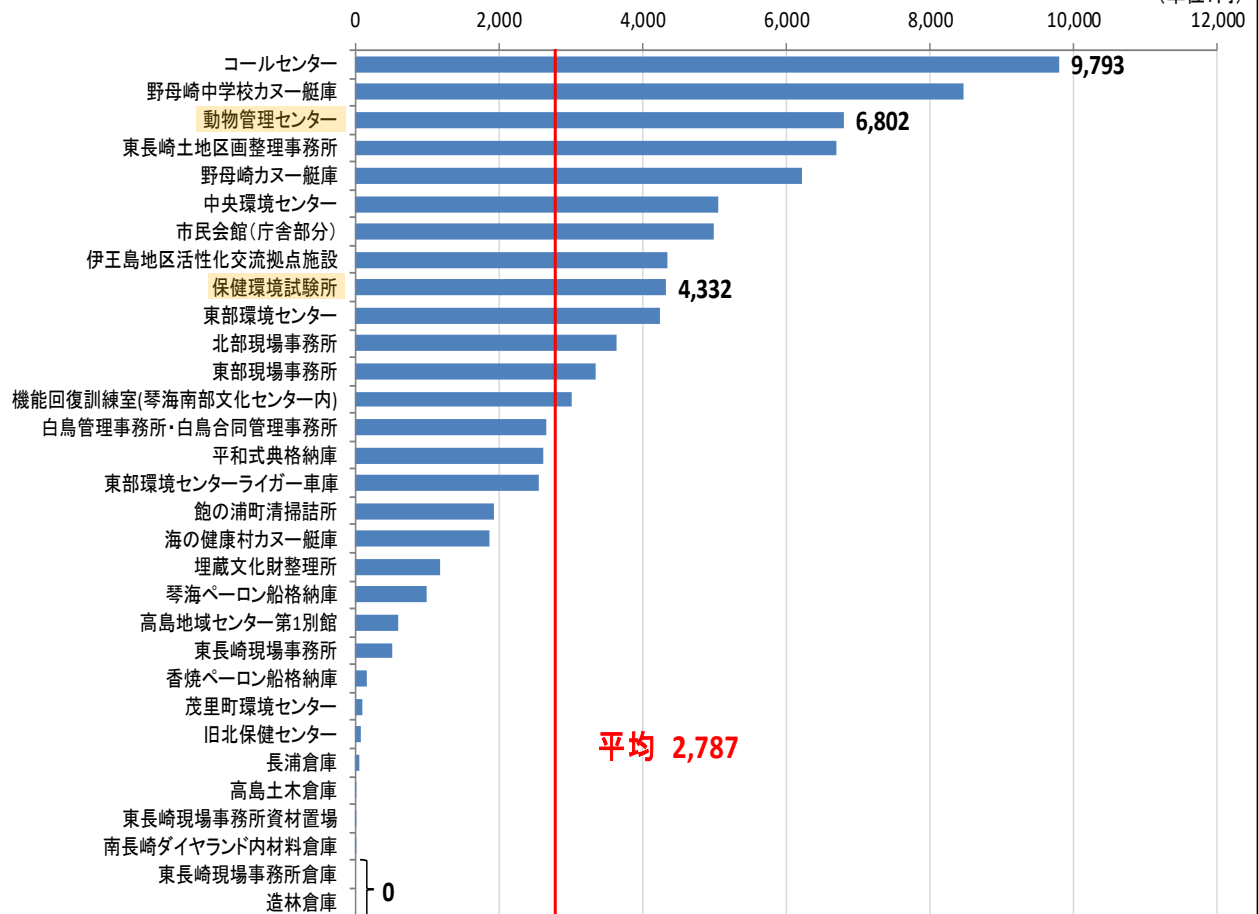
施設名称	今期	次期計画	備考
	～2029	2030以降～	
保健環境試験所			適正管理を行う
動物愛護管理センター			施設のあるべき適正な規模や場所について検討する

その他事務所の床面積1㎡当たりの年間コスト(令和2年度実績)

(単位:円)



(単位:円)



(4) 公園施設

①公園施設（街区公園）

公園施設の 施設配置の 基本的な考え方

公園については、防災・避難等災害に対応できる機能を確保し、バリアフリー化など機能の向上や、複合遊具等を活用した魅力的な子どもの遊び場の創出、地域イベント等の開催が可能な広場等の整備による地域コミュニティの空間の創出、スポーツ施設等の利用環境の充実、健康寿命を延ばす健康づくりのための機能の導入等、多様なニーズに対応した公園づくりを推進します。

また、市内における都市公園の市民1人当たりの標準の敷地面積及び、市街地の都市公園の当該市街地の市民1人当たりの標準の敷地面積はそれぞれ次のとおりとし、都市公園の種類や目的及び誘致距離を勘案し配置の均衡を図ります。

（1人当たりの敷地面積）

- ・本市内の都市公園の市民1人当たりの敷地面積の標準 10 m²以上
- ・市街地の都市公園の当該市街地の市民1人当たりの敷地面積の標準 5 m²以上

（公園種別と標準面積）

公園種別	標準面積
街区公園	0.1ha（1,000 m ² ）
近隣公園	2.0ha（20,000 m ² ）
地区公園	4.0ha（40,000 m ² ）
総合公園	利用目的に応じて適宜
運動公園	利用目的に応じて適宜

（1）総合公園

都市基幹公園として、都市住民全般の休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供するため必要な施設です。また、地区公園の配置を補完する役割も有しています。

（2）運動公園

都市基幹公園として、都市住民全般の主として運動の用に供するため必要な施設です。スポーツに特化したサービスの拠点として必要です。

（3）地区公園

住区基幹公園として、主として徒歩圏内に居住する者の利用に供するため必要な施設です。住民のレクリエーション等の拠点として配置します。

（4）近隣公園

住区基幹公園として、主として近隣に居住する者の利用に供するため必要な施設です。日常における憩いの場や避難場所等防災の拠点として配置します。

（5）街区公園（遊園を含む）

住区基幹公園として、主として街区内に居住する者の利用に供するため必要な施設です。

将来人口の推移及び立地適正化計画における居住誘導区域を踏まえながら、整備面積・配置・機能が過大である地域においては廃止し、不足している地域においては、統廃合や新設により適切な公園整備を推進します。

ア 現状及び課題


【街区公園（24 か所）】

街区内に居住する住民の方に利用されています。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

- 街区公園については、将来人口の推移を踏まえながら、統廃合や新設により適切な公園整備を推進します。






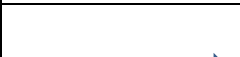
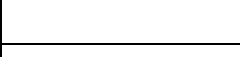




ウ ロードマップ





施設名称	今期	次期計画	備考
	～2029	2030 以降～	
街区公園 24 か所			適正管理を行う 統廃合や新設により適切な公園整備を推進する

6 地区計画のロードマップ（再掲）

地区計画を着実に実施していくため、施設ごとの将来のあり方について、今後の再配置の推進工程（ロードマップ）を示したものです。

再配置の実施時期については、建物の状況（建築年、安全性など）や施設の稼働率、提供している行政サービス、さらには施設が設置された経緯や市の施策との整合性などを考慮し、区分します。

施設名称	今期	次期計画	備考
	～2029	2030 以降～	
障害福祉センター			適正管理を行う 発達障害児の療育機能の拡充を検討する
原子爆弾被爆者健康管理センター			代替機能の確保を前提に施設は廃止する
野口彌太郎記念美術館			旧長崎英国領事館内へ機能を移転する
歴史民俗資料館			野口彌太郎記念美術館移転後のスペースに移転する
平和会館ホール			適正管理を行う 新たな文化施設の整備後に舞台設備を廃止し、利用機能を縮小する
長崎ブリックホール			適正管理を行う 国際会議場は、新たな文化施設の整備後に音楽ホールへの改修を検討する
動物愛護管理センター			施設のあるべき適正な規模や場所について検討する
街区公園 24 か所			適正管理を行う 統廃合や新設により適切な公園整備を推進する
山里小学校 坂本小学校 銭座小学校			適正管理を行う 地域の状況や児童数の推移を見極めながら学校規模の適正化と適正配置を行う
たかおクラブ：キラキラたかお／もりもりたかお たかおクラブ：わくわくたかお やまざとクラブ やまざとキッズハウス おおくす児童クラブ			適正管理を行うとともに、学校の適正配置に併せ、事業者によるクラブの統合を働きかけていく
発達支援特化型子育て支援センター「にこっと」			適正管理を行いながら施設のあり方や場所について検討する

北消防署浦上出張所			主要幹線道路の整備状況を見ながら、機能・配置の見直しを行う
老人福祉センターあじさい荘			利用者数や設備の状況・耐用年数を踏まえ、高齢者専用施設としては適切な時期に廃止する
シュモー住宅			適正管理を行う 建替えなどの際には、適切な規模への見直しを行う
銭座住宅			適正管理を行う 一部用途廃止を検討する
永井隆記念館 如己堂 原子爆弾無縁死没者追悼記念堂 長崎原爆資料館			適正管理を行う
山里地区ふれあいセンター 浦上駅前ふれあいセンター 銭座地区コミュニティセンター			適正管理を行う
高尾小学校 山里中学校			適正管理を行う
山里地区子育て支援センター 「あいあい」			適正管理を行う
茂里町駐車場 浦上駅二輪車等駐車場 若葉町二輪車等駐車場 大橋町二輪車等駐車場			適正管理を行う
若葉住宅 三芳住宅 江平住宅			適正管理を行う
北消防署			適正管理を行う
保健環境試験所			適正管理を行う

参考 市民対話の実施

人口が減少し少子高齢化が進んでも、長崎が暮らしやすいまちであり続けられるよう、公共施設のあり方・使い方について、地域住民と行政と一緒に考える場として、「市民対話」を実施しました。

将来の長崎市の姿を見据えた行政サービスのあり方と、それを提供する拠点となる公共施設のあり方について、市の基本的な考え方をお話しするとともに、地域に必要な機能（行政サービス）をこれからも維持しながら、地域の賑わいや活力あるまちづくりにつながる施設の集約化、多世代交流の促進を生み出す複合化・多機能化など、公共施設の見直しについてさまざまな意見をいただきました。

山里・江平地区での市民対話の開催状況は、以下のとおりです。

<第1回>

- (1) 開催日 令和4年7月2日（土）18：30～20：30
- (2) 会場 山里地区ふれあいセンター 第1研修室
- (3) 内容
 - 公共施設の現状や見直しの必要性について
 - 公共施設の配置の基本的な考え方について
 - 地区の皆さんでの意見交換・意見の発表
- (4) 参加者数 14人

<第2回>

- (1) 開催日 令和4年8月21日（日）10：00～12：00
- (2) 会場 山里地区ふれあいセンター 第1研修室
- (3) 内容
 - 山里・江平地区の公共施設の配置の考えについて
 - 第1回でいただいたご意見・ご提案への市の回答
 - 地区の皆さんでの意見交換・意見の発表
- (4) 参加者数 10人

◆山里・江平地区の市民対話の詳細については、長崎市のホームページでご覧いただけます。

「山里・江平地区の公共施設の将来のあり方を考える市民対話」

(URL：<https://www.city.nagasaki.lg.jp/syokai/792000/792109/p038471.html>)

長崎市公共施設マネジメント
山里・江平地区計画

令和5年(2023 年)2月
令和7年(2025 年)12月改訂
長崎市

【問い合わせ先】

長崎市財務部資産経営課

電話:095-829-1127

FAX:095-829-1248

Email: shisankeiei@city.nagasaki.lg.jp